

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本ゼミでは、毎年テーマを決めて、地域住民を対象とした公開講座等にて情報発信や健康支援等の啓発活動を行っている。2023年度後期～2024年度前期は、腸内環境を整えるための活動である「腸活」をテーマとした。「腸活」は、免疫力や睡眠の質の向上、肥満予防や老化予防等に効果的であるとされており、食事・運動・睡眠等の生活習慣を整えることが大切である。また栄養と口腔機能は密接に関係することより、本ゼミでは、九州歯科大学口腔保健学科の学生・教員と連携し、地域住民を対象とした公開講座を毎年開催して栄養と口腔機能に関する啓発活動を行っている。「腸活」に関して作成した成果物を主にこの公開講座にて発表することを計画した。 今期は、3名の学生が、上記の活動に対する興味・関心を主な動機として本ゼミに参加した。文献検索等によって情報収集・考察し、レポートにまとめ、協働して啓発資料を作成することを指導した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	九州歯科大学口腔保健学科との連携公開講座では、小学生とその保護者を対象として、小児期からの適切な生活習慣を意識付けるための啓発活動を行った。本学科の複数のゼミと協働して活動するとともに、栄養と口腔保健の専門課程で学ぶ学生同士、多職種協働による啓発活動を行う機会を得た。本ゼミでは、「腸活」や腸に良い食事について作成した啓発資料を紹介し、参加者の食事相談等に応じた。地域貢献活動交流会では、これらの活動を発表し、交流会参加者からの質問に対応するなどの貴重な機会を得た。また情報を届けるべき重要な対象でありながら届ける手段に苦慮することの多い若者に対して効果的に啓発する方法についても検討した。同世代の若者が多く集まる本学の大学祭を利用して、食中毒予防のためのチラシを配布するなど、若者へ情報を届けるための活動を試みた。 学生たちは上記の活動に主体的に取り組み、一般市民に向けたわかりやすい資料を作成する能力や管理栄養士として栄養指導等を行う上でのコミュニケーション能力を養うことができた。また九州歯科大学口腔保健学科と連携したことは、多職種協働について学ぶ実践的な場となり、管理栄養士としてのモチベーションを高める有意義な活動になったものと考えてる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は選択科目である。管理栄養士として就業した際に、患者指導や市民教育の場で情報発信することを想定して学習内容を設定しており、学生もそのことを理解した上で参加した。協働して成果物を作成し、新たな知識を得たと自己評価していることから、内容的に妥当であったと考える。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 就職後に医療の現場において必要とされる知識・技術を想定して学習内容を構成した。多くの学生が、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」「職業選択の参考になった」と肯定的に自己評価しており、内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上より、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「腸活」をテーマに、文献検索等によって情報収集・考察し、レポートにまとめ、協働して啓発資料を作成することを指導した。レポート作成・一般向け掲示物作成・スライド作成等についての指導を行い、学生たちは、有益な食材や生活習慣について紹介する掲示物やスライドを作成した。また本学科では、ゼミ担当教官はゼミ学生のアドバイザーを兼ねているため、実践活動指導に加えて、就職活動におけるエントリーシート作成や面接対策等に関するサポート、および国家試験に対する支援を並行して行った。学生たちは、国家試験のための勉強時間を確保するために、長期休暇中も計画的に研究を進め、レポートや掲示物・スライドの作成に主体的に取り組んだ。 九州歯科大学との連携公開講座にて、地域住民への情報発信や健康支援を行い、口腔内環境と全身の病気、生活習慣等についての啓発活動を行ったことは、将来の希望職種でもある病院管理栄養士としてのモチベーションを高め、多職種協働を学ぶことにつながったものと期待される。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成果物を作成する過程で出典や引用文献を明示する必要性について指導したことは、将来論文等を執筆する際の規範を学ぶ一助となったと考える。また一般市民向けに説明するための資料を作成し発表したことは、管理栄養士として栄養指導等を行う上でのわかりやすい資料を作成する能力、および患者とのコミュニケーション能力を養うことに寄与したものと考える。さらに九州歯科大学口腔保健学科との連携公開講座にて啓発活動を行ったことは、多職種協働について学ぶ実践的な場となった。これらの経験は就職活動時にアピール材料として提示することができ、4年間の学習の集大成となり得るものである。一方で、臨地実習や就職活動・国家試験の勉強を行いながら、公開講座や地域貢献活動交流会の準備を行ったため、学生たちのスケジュールを調整することがしばしば困難であった。早めに年間計画を立てて準備するとともに、学生たちにも活動計画を自己管理できるよう促していきたい。

学科	栄養学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①実践活動では、栄養疫学の知識を生かして、大腸癌の疫学と2型糖尿病の疫学について研究した。 ②週一回の抄読会を行い、先行研究について発表をおこなった。 ③学生たちの勉強意欲を高めるため、ゼミ中の質問や討論を増やした。 ④調査資料の整理、エラーチェック、統計ソフトの使用などについて、できるだけ自分がすることに徹底した。 ⑤アルコール代謝酵素遺伝子多型の実験をし、自ら実験操作をして、応用力の向上を目指した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	①発表成績の平均値は88点であった。論文の読み、説明は非常によかった。					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。	②昨年度と比べると、成績平均点は上昇した。					
	③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も100%で、知識理解、思考判断、技能表現、関心意欲、態度については目標が達成されたと考えられる。					
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「実践活動」であり、実践能力、判断能力及び論理的思考能力を訓練する科目である。 ②D P, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断、意欲関心、態度及び技能表現に関し、すべて目標は達成した。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が4.1で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が4.1であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は4.6で、授業の内容はよかったが、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.8であった。次年度に向けては、もっとゼミ生が自分で考え、自分で計画をして、研究をすることを推進したい。 学生の意見として、感謝の気持ちを書いてあったが、今後もっと学生の学問に関する科学的考え方を育てていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	実践活動である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面、技能表現及び意欲関心の面では課題をすべて達成した。 授業過程を振り返ってみたとき、授業中、勉強内容が少し狭い範囲で、今後、幅広い知識を吸収するよう努力を行っていきたい。 科学論文、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進度について改善して行きたい。

学科	栄養学科
氏名	永田 純美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は実践活動であるため、学生の自主性に重点をおいている。また、全ての活動において学生を中心とし、自身で考えて行動できるように配慮した。 また、産学連携において企業の方々との関わりを持つことにより、今後目指す社会人像を明確にし、就職活動や管理栄養士国家試験受験に向けてのモチベーションを高めることを目的としている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	公開講座における食育および産学連携でのレシピ作成では、企画書を作成して実行することができた。 公開講座では、小学生とその保護者を対象に給食の提供と食育を実施した。給食を食育の媒体として活用するため、学校給食の特徴や家庭で不足しがちな栄養素について文献検索や資料の収集を行い、テーマの決定と食育の達成目標を設定した。 北九州市との共同企画である学校給食応援団の活動では、6グループに分かれてぬか床を使用した献立を作成し、試食会およびプレゼンを実施した。また、試食会では教育委員会との意見交換も行った。 以上のことから全てのDPを達成することができたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門教養科目」「専門分野」であり、これまでに培った知識や経験をもとに、問題解決能力、論理的思考能力、企画立案能力を養う科目である。 公開講座では、給食経営管理論および栄養教育論に関する知識を活かし、給食の提供や食育を実施した。 産学連携では、対象となる食品企業の商品を知り、商品の売上向上に寄与するためのレシピ企画・提案を行うため、これまでの知識や経験を活かすとともに、企画立案能力を養うことができると考えられる。 学校給食応援団では、ぬか床を使用した献立を作成し、試作と修正を繰り返し行ったことにより、問題解決能力や企画立案能力を養うことができると考えられる。 よって内容的には妥当であったと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度より、各企画に取り組むにあたって企画書の作成を取り入れた。企画書を作成することにより、達成したい目標が明確になり、計画的に実施することができた。また、グループ内での取り組みが平等になり、進捗状況の把握が容易になった。公開講座ではアンケート集計を行ったため、実施・評価・改善まで行うことができたが、産学連携では実施の部分が中心となっているため、企業と事前に評価・改善方法を決定しておく必要があった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度は、公開講座における給食提供と食育、産学連携、学校給食応援団と多くの活動を実施することができた。 特に産学連携は、企業の方々とレシピ開発に関することだけではなく、就職活動や働き方についての話を聞くことができ、学生にとっては有意義な活動になったと思われる。 産学連携では評価・改善の部分の実施ができていないため、レシピの閲覧数やアンケートなどにより定量的な評価が行えるように努めたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康管理概論	3	前期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年生になって統計学、栄養疫学と公衆衛生学の学習は終了したので、健康管理概論の講義は今までの勉強のまとめとして学習するよう指導し、管理栄養士国家資格取得するための意識を高め、できるだけ具体的な演習問題を解くようにしている。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。 ③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。具体的にはスライドの見やすさ、講義内容の論理性などについて修正した。 ④受講動機を見ると、「必須科目である」96.0%、「資格取得に必要である」30.0%、「関心のある内容である」7%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。授業中の学生たちの勉強意欲を高めるため、授業中の質問や討論を増やしたい。 ⑤授業内容がはっきり聞き取れるよう言葉はゆっくり話すところがあった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は85.9（±9.1）点であり、不合格者は0人だった。理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達した。 ②昨年度と比べると、本試験の平均点は同等レベルである。今年度は対面授業で、対面試験で評価した。 ③学生による授業評価においては、「自分なりの目標を達成した」と回答した者は100%であったが、「一回30分程度の予習・復習をしたか」という質問に対し、0回と回答した者は多かった。次年度は予習・復習の重要性を初回の授業のオリエンテーションで説明する必要があると認識した。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったので、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②D P, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断に関する達成度が比較的良好であった。今年度は対面授業であり、対面試験で評価した。内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が4.0で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.4であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.6で、授業の内容は良かったが、予習・復習の時間が想定より少なかったことが反省点である。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、予習・復習をしっかりと、授業に参加するよう促していきたい。 学生の意見として、「専門用語をしれた」という意見があり、次年度からは専門用語の説明にも力を入れて、授業を改善して行きたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心及び態度の面で課題は達成できた。今後、予習・復習の重要性をしっかりと説明し、学生の成績の向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業中、質疑応答の時間を設けたことで学生の思考判断を高めることができた。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を取り、復習課題を提示して、学生の意欲関心をもっとあげる努力をしていきたい。 説明内容に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて改善して行きたい。

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
解剖生理学	1	前期	必修	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教科書の図を順序通りに説明を行うことにより、学生がメモを取る時間を極力軽減し、説明を聞く時間を多くとり講義時間内に理解してもらえるように取り組んだ。説明文は、教科書と同じ文章を用い、教科書に印をつけるだけでキーワードを含んだ文章を探し出せるよう講義スライドに記入した。 ②講義資料は、講義開始前に紙媒体で配布した。 ③管理栄養士国家試験において得点率が低い分野であること、また調理や栄養に直接的な関連がわかりづらい分野であり且つ初年次前期での履修となるので、興味を持ってもらえるよう身近な病気・病態や生理現象をできるだけ多く提示した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の結果 本試験の合格者は36名中34名で、再試験の合格者は2名中2名であった。本試験の平均点は70.9±7.3点であり、標準的なレベル（概ね70点以上）に到達していると考えられる。加えて、理想的なレベル（概ね80点以上）が4名であった。上位と下位の取り組み方に大きな差があり、学力の差を点数以上に感じた。次年度は、講義資料を前もって配布し、進みそうな範囲を前もって予習してきてもらうことのみならず、復習してもらえるよう工夫を凝らすことなどを考えている。 ②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90%以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」、「学生が参加する機会」などについては、「少しそうでないと思う」以下が多い項目で40%程度ある。専門基礎科目であることから、知識の習得に重きを置きがちではあるが、このような機会を講義の中で作っていくことを次年度の課題とする。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。調理や栄養と直接的な関連性が分かりづらい科目ではあるが、学生も一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたこと、加えて定期試験問題は管理栄養士国家試験の問題に準じて作成したので、内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が2.3と低かった。身近な生理現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けてはいたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかったところが反省点である。予習・復習や自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることにより、予習を促し、途中で小テストを入れるなどして、復習する動機づけを検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、講義内容や講義時間中の質問は一切なかった。加えて、学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。今後、毎回の講義のねらいを具体的に示し、グループごとに討論する時間を設けたり、その内容を発表してもらうなど、学生がもっと参加する意欲が持てるよう努力していきたい。 配布物や講義の進行については、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に向けて改善を行いたい。

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生化学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本講義は、科目の本質上、特に論理的思考を促すことに重点を置いて進めている。一年時の選択科目である「生活の中の化学」、および一年時の必須科目である「生化学Ⅰ」で講義した知識・理論と連動性をもたせるように心掛けている。今回の受講動機は、「必修科目である」84%、「資格取得に必要である」34%の2つに集中しており、一方、「関心のある内容である」は、低く、9%であった。講義は対面方式で15回を行った。学生は真面目に授業に取り組んでいるように見受けられた。栄養学と生化学はその起源が同一という見方もあり、かつ国家試験受験資格取得に必須の科目でもある。好むと好まざるにかかわらず、栄養学を学ぶことを決意した以上は、生化学に正面から取り組むべきであることを第一回目の講義で説明した。また、生化学が生理学や基礎栄養学をはじめとするいくつかの科目と連関していることを折に触れ強調しつつ講義を進めた。 ②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布している。講義の前後、あるいは試験前に目を通したうえで、学習に取り組むことを勧めている。 ③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者数は、再履修を含め60名であった。期末試験本試験後の最終成績の平均は63点であった。合格者中、優（80点台）が7名、秀（90点以上）が3名うち100点1名であった。一方、再試験後の不合格者は4名であった。優以上の学生は昨年の7名から倍増し、不合格者は昨年の24名の1／3以下であった。本年度の講義は15回すべて対面方式で行った。学生の受講態度は概ね良かったように見受けられたが、成績は昨年より若干下がっていた。授業の質評価では「説明は理解しやすいものであった」の平均評点が3.8で昨年よりも上がっていたが、教育効果は特に上がっていなかったようである。ただ例年通り白紙に近い答案を提出する学生が数名見られ、このような学生に今少し意欲を出して諦めずに勉強するよう促す工夫と心がけが必要と考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、国家試験受験資格取得必修である。合格率、平均点、高得点者の数から考え合わせて、内容的には妥当と考える。 ②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率から考えると、前二者に関しては、低調な内容であったと考える。やや高度な思考力をようする問題は、意欲や関心を持って普段から学習に取り組む必要がある。本年度の受講生は、受講態度が良く、意欲も感じらた。それに比例して例年より得点率が高かった。今後は、学生により論理的思考を積極的、意欲的に行うことを特に指導していきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.5であり、昨年度に引き続き、前年度よりはやや改善していた。説明の仕方、講義資料やスライドの図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているが、さらなる精査に取り組むことにする。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう心掛けたい。次年度に向けては、思考判断の重要性をより具体的に示した上で、授業に参加するよう促していきたい。また、本試験前に勉強することを促すように心掛けるようにしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度の学生の受講態度は、全体としては、評価に値するものであった。その成果が今少し成績に反映されるように工夫を加えていくつもりである。本年度の学生は、講義態度を問題ないが、やや大人しく、講義中や講義後にわからないところを質問して、解決しようとする学生が昨年よりは少なかった。学生の積極的な取り組みを促す工夫を続ける必要を感じた。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疾病診断治療学Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①管理栄養士にとって医学的知識は不可欠であるが、まだ2年生であることから、医学的検査や疾病に対しての具体的な興味は持ち得ていないと考えられる。入学後初めての医学各論であるため、検査機器や疾病の写真を多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、疾病に対してのイメージを持ちやすくすることに重点をおいた。 ②授業で使用するスライド資料を印刷して配布した。 ③スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにした。また授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。 ④学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施した。学生にとって授業での重要ポイントを理解することができるとともに、教える側にとっても、学生の理解度に応じた授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。 ⑤毎回の授業の始めには、前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本試験の成績の平均値は 85.9 (±7.9)点であり、昨年度の 81.3 (±6.7)点より高得点であった。また本試験を受験した学生の全員が合格したことより、ほぼ全員が標準的なレベル以上に達したと考える。 授業においては、指名して質問する機会を持つことで意欲関心や態度を評価した。学生の授業評価アンケートでは、学習到達度の自己評価において、ほぼ全員が「自分なりの目標を達成した」と回答しており（平均値 3.8点）、授業は概ね理解しやすいものであったと考える。特に、「新たな知識を得ることができた（平均値 4.0点）」「的確な判断力を得ることができた（平均値 4.0点）」「学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値 4.1点）」において自己評価が高く、管理栄養士へのモチベーションを高めることにつながったと考える。 これらのことより、教育目標は概ね達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される分野であり、また管理栄養士として就業するにあたってはコメディカルとしての医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、ほぼ全員が自分なりの目標をある程度達成したと考えており、定期試験においても一定の成績を収めていることから、内容的に妥当であったと考える。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 管理栄養士国家試験に出題される領域のみならず、就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して授業内容を構成した。全員が、「新たな知識を得ることができた」「専門分野の学びを深めたいと意欲を持つことができた」「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「職業選択の参考になった」と肯定的に自己評価しており、内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上より、内容的妥当性に問題は無いと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価は、5項目中3項目が平均値 4.0点超であり、授業の説明については、全員が「理解しやすいものであった（平均値 4.2点）」と答えている。授業の質評価および到達度自己評価は概ね肯定的であり、全員が「学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値 4.1点）」と考えている点は評価できる。 なお授業の課題以外に自発的に学習に取り組んだ学生は 37%にとどまっているが、自由記述にて、他教科の課題が多いために授業外学習時間を確保することが難しいとの訴えが例年多いため、確認テストを授業の中で行って提出させるなど、授業時間内に知識を定着させることができるよう工夫している。毎回の授業の最後に確認テストを行い、加えて次の授業の初めにも前回授業の復習を組み込んだことで、学生が理解できていない事項を早めに認識し、くり返し説明したことが知識の定着につながったものと考え。ほとんどの学生が授業で配布した資料を活用しながら記録を作っており、自由記述からは、確認テストを復習することで重要ポイントの理解につながったことが伺える。今後も、配布資料を工夫したり、確認テストを利用したりすることで、授業時間内に理解を促すことを目指したい。 一方で、授業の課題以外に取り組んだ学習として、インターネットで調べた、分からないことを調べた、気になった語句を調べた、などの自由記述が多数寄せられた。今後も興味・関心を高める機会となるよう、わかりやすい事例を紹介したり、インターネットや図書館を積極的に利用することを促したりして、自発的に学習する楽しさを教えていきたい。またインターネットについては、あふれる情報の中から出典の確かな正しい情報を選び、正しく活用する方法について指導していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は専門基礎科目であり、後期の疾病診断治療学Ⅱにつながる科目として、管理栄養士に求められる医学的な基礎知識を修得することを目指した。成績評価および学習到達度の自己評価より、教育目標は概ね達成できたと考える。 授業外学習時間を十分に確保することが難しい状況においても、一定数の学生は予習・復習や課題以外の学習に積極的に取り組んでいた。一方、修得すべき医学的知識は、生物学・化学など内容が多岐にわたり量も多いため、個々の学生の到達度はさまざまである。今後は全員を理想的レベルに持っていくことが課題である。授業内容を整理することで質疑応答の機会を増やす、事例を取り上げて検討したりするための時間を増やす、確認テストの中にフリーコメントの質問欄を作る、など個々の理解度を確認するための方策を工夫する予定である。全員が興味を持って学びを深めるための自己学習に取り組むよう学生の意欲関心を高めていきたい。

学科	栄養学科
氏名	木村 宏和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
微生物学	3	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目であるが、科目名やシラバスから何を学ぶかをイメージしやすい。今回の受講動機をみても「関心のある内容である」が78%で一番多い結果に反映していた。学ぶ領域が多くて内容的には難しいが、ニュースなどの身近な出来事を挙げながら、関心を引きつけるようにしてきている。これは、昨年度の改善計画である、「授業中に微生物に関する最新の話題提供などの話を積極的に行うこと、また、教科書に記載していない微生物に関する知識等について紹介する事」を念頭にやっていることでもある。 ②講義の前に毎回確認テストを行い（計14回）、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ③講義の終わりに毎回講義の質問や感想を書かせて、次の講義の時にそれらをフィードバックした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			どちらともいえない		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終的な成績の平均値は87(±7.6)点であり、再試験対象は0であった（履修放棄1名）。多くの学生が理想的なレベル（80点以上）であり、概ね目標は達成したと思われる。目標別について考える際、技能表現に関する項目についての評価は難しい。意欲関心に関する項目については、授業評価の項目の「自分が学びたいとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」について、「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と回答した学生が33%（3名）、学習量の評価の項目の「授業を振り返るために1回30分以上の復習をどのくらいしたか」について、「わりにそう思う」、または「かなりそう思う」と回答した学生が33%、以上のことより、どちらともいえないとした。					

*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、管理栄養士国家試験受験資格の必修ではない選択科目であるが、「受講動機」として、「関心のある内容」や「単位数を確保する」などであった。また、「学習到達度の自己評価」について、やや達成された結果が出ている。一方で、自由記述の意見では、「一人で復習をするには内容が難しかった」との回答があった。本科目は、幅広い領域の微生物学を教授する科目であるため、食品学Ⅰ、食品学Ⅱ、加工食品機能論の次に配置されているのは妥当であるとする。従って、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性については、妥当であると考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、学習量の評価の自由記述欄で、「内容が難しい」と理解するのが厳しい、「忙しかった」「他の科目を優先した」など、関心が低い記述があった。微生物学は大変幅広い（食、医学、環境などに関連）ので、初めての微生物学の講義で理解および興味を持たせるのは大変難しいと思われる。講義内容を平易にすることは、微生物学の本来学ぶべき事柄をカバーできなくなる可能性があり、避けるべきだと思われる。昨年度と同じことになるが、授業に関連した映像や日常的な情報をタイムリーに利用しながら、興味・関心を持たせるように努力していくほかはないと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習到達度の学生の自己評価から判断すると、目標のDPをやや達成できたと考えている。しかし、予習・復習時間のさらなる確保、関心・意欲の向上など解決していくべき課題がある。これらを改善できるように、今後とも授業改善に積極的に取り組んでいきたいと考えている。

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①当該科目は必須科目であり、また、管理栄養士国家試験受験資格取得のためには必要の科目であるため、受講動機は「必須科目」が100%であった。また、「資格取得に必要である」も高く、学生たちは本教科の必要性や重要性を認識できていると考える。 ②食品の栄養成分や嗜好性成分、機能的成分などについて修得する科目であり、成分の構造や性質は多岐に渡る。講義では、要点スライドにまとめたものを使用し、学生への配布も行っている。 ③例年、授業開始時におこなっている「授業の初めに目的を提示する」取り組みを継続して行った。各講義で特にしっかりと理解してほしい点を提示することによって、重点的に復習し、知識を定着させることを意識させた。今年度は授業終了時に、目的に沿った内容を特に重点的に復習することを伝えた。 ④授業後の復習が小テスト対策に繋がるよう、小テストの実施も継続している。アンケート結果からも、小テストのため授業の復習を行う学生が増加していた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①成績評価 受講者数35名のうち再試験対象者は10名であり、内1名が再履修対象者となった。再試験後は97.1%（34名）が標準レベルに達し、そのうち理想的レベル（80点以上）に達したものは11.8%（4名）であった。成績評価から、9割以上が標準レベルに達しており、昨年度は平均点が減少していたが、本年度は昨年度と比較して平均点が5点上昇していた。しかしながら、再試験対象者が多い事、再履修者がいることから、全体的な評価を「達成」、知識理解の評価は「やや達成」と判断した。 ②授業アンケート 学習到達度の自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」項目で平均値が4.4、的確に判断する力：4.2、学びを深めたい意欲を持つことができた：4.2、専門分野で必要となる技術を身につけることができた：4.0と高い結果であった。また、わかりやすい、面白い、食の事について詳しく知ることができたこととのコメントがあったことから、「思考判断」「関心意欲」に対しては達成できたと評価した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品が有する栄養成分の特性、嗜好的特性、生体調節に関する特性性など、管理栄養士・栄養士として食品に含まれる成分の基礎的知識を修得することは必須である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的にも妥当であったと考える。 ② DPからみた内容の妥当性 成績評価から97.1%が標準レベル以上に達しており（内 理想的レベル：11.8%）、基礎的な教養が身にについていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は平均値4.2、「説明は理解しやすいものであった」は平均値4.2であり、授業に配布したプリントや重視する点の提示が一定の効果があったと思われる。小テストの取り組みにおいて復習を取り組む学生は増加していたが、それでも「0回」と回答した学生が14名いるため、引き続き、復習の時間を取り理解を定着させることを促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「専門基礎科目」に位置づけされている科目であり、「食品成分」に関する幅広い知識の習得に繋がる教科である。97.1%が標準的なレベルに達しており、概ね達成できたと考える。また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目で平均値4.4、的確に判断する力：4.2、学びを深めたい意欲を持つことができた：4.2と高い結果を得たことから、達成度も妥当と考える。食品学Ⅰは翌学期に控えている食品学Ⅱを学んでいくうえで重要な教科であるため、学びへの意欲を持続けられるようにその都度、授業を見直しながら進めていきたい。 授業初めにその日の目的などを提示することで、集中的に学んでほしい点、自己学習につながる説明を繰り返し行い、昨年度より平均点の上昇が見られたため一定の効果が得られたと考える。今後は学生が理解できていない点や難しく感じる内容などを把握できる取り組みを加えたいと考えている。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
調理学	1	前期	必修	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①授業の始まりに、先週の内容を復習し、身につけているか確認するための復習テストを行った。 ②1枚のスライドの文字を大きく見やすくし、説明がわかりやすいようにした。（印刷物も同様） ③受講動機は必修科目であり、資格取得に必要な科目である。具体例をあげ、関心を持つように心がけた。 ④章ごとに、認定試験や国試に出た実際の問題を提示し、出題内容や出題傾向を説明し、覚えるポイントとした。 ⑤栄養士実力認定試験やフードスペシャリスト認定試験に出題される調理学の問題も含め配布し、授業のレポート提出とともに課題とした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の評価点は77.5±11.0点であった。90点以上が17％、80点以上が29％であり、70点以上が29％、60点以上が23％であった。 到達度自己評価の平均値と中央値は（1）目標の達成：4.2、4.0、（2）知識の確認修正：4.4、5.0、(3)事象を理解する考え方：4.0、4.0、(4)課題検討力：4.3、4.5、（5）的確な判断：4.4、5.0、（6）学習意欲：4.4、5.0であった。 復習テストを授業開始時に毎回行っているが昨年に比べ、得点が低くなっている。復習テストで点を取るため、自学や復習の時間を作っている学生と、復習テストを実施するも、全く勉強していない学生が目立った。復習テストは、定形の問題や解答を丸覚えしているため、得点は高いが、応用問題となると答えられないケースが見受けられる。学習した内容を応用できず、応用力の無さが浮き彫りとなった。 授業の質の評価の（3）説明は理解しやすいものであったでは平均点4.4、中央値5.0で平均並みであった。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や知識の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であるとする。 ②D P, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。もっと自発的に行動させるため、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業を組み込んでいきたい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	復習テストの実施やレポートの提出により復習を促した結果、学習効果が見られたと考えられる。しかし、応用力の低下がみられるため、復習テストの内容を、○×のような単純な形式でなく、数値やワードを解答する記述問題を取り入れることが重要であると考えられる。記述問題を解答するには、記憶力、理解力を要するため、対応策として復習時間の定着が見込まれる。回数を重ね、応用力を定着させていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。毎回の授業の復習レポートと共に、栄養士実力認定試験や、国試関連の問題を解き、調理理論及び調理科学の理解を促し、学習効果を高めたと考えられる。 授業で説明した内容がどのような問題となって出題されているか認識させ、正答までに導くために、数回の小テストの実施が必要であるとする。 また、この科目は1年次に習得するため、国試対策を行う4年次の時点では、学習内容が希薄となっている。そのため、繰り返し学習させることが重要である。後期行われる授業（応用調理学実習）では、実技の習得と共に、調理理論の復習も兼ねて、学習効果を高めていくことが課題である。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	木村 宏和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品衛生学	2	後期	必修	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①、②本科目は必修科目であり「管理栄養士国家試験受験に必要な科目」である。学生はこのことを理解していると考え授業準計画を立てているが、受講動機をみると、「必修科目である」に回答した学生が100%に対して、「資格取得に必要である」は19%であった。大変驚きの結果であった。1年生の時から、国家試験受験にどの科目が必要なかをきちんと把握させることが必要ではないかと思われる。 ③昨年度の授業の改善計画で、「授業の振り返りが簡単にできるような教材も考えていく」と記載したが、毎回の講義内容をパワーポイントでまとめて配布しており、それで充分であると考えたので、新たな教材の導入は行っていない。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は82（±11）点であった。知識理解については、到達度自己評価の「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を理解することができた」の項目に「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と回答した学生が84%前後を占めたことから、達成されたと判断した。思考判断については、達成度自己評価の「様々な課題を検討する力を得ることができた」、「的確に判断する力を得ることができた」の項目に「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と回答したが学生が80%前後を占めたことから、達成されたと判断した。意欲関心については、達成度評価の「学びを深めたいと意欲をもつことができた」の項目に「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と回答した学生が81を占めたこと、自由記述欄に「分からないところを調べたりした」や「更に学びを深めたい語句について調べた」との回答があったため、達成されたと判断した。以上の観点より、全体を通して達成されたと判断した。					

5. D P、C P、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P、C P、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	管理養士国家試験受験資格の必修科目で、卒業必修科目である。本科目は、食品衛生に関する科目なので、食品学Ⅰ、食品学Ⅱの次に配置されているのは妥当であると考え。従って、D P、C P、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性については、妥当であると考えている。ただし、本科目は以前は2年生後期の開講であったが、本年度から2年生前期に移動された。本科目に関連する実験が3年生前期に開講されることから、そのつながりを考慮すると、以前のように2年生後期で開講されるべきである。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	情報量について「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」、「シラバスに沿って授業を受ける計画を立てた」、「あらかじめ授業計画を立てなかった」と回答した学生が多いのが目についた。また、「学習量の評価」について、「授業を振り返るために一日30分程度以上の予習または復習をどのくらい行いましたか」について、約半数以上の学生が「0回」または「1回」と回答していた。このような背景が、授業を受け身で受ける、関心がなくなるにつながるものと考えます。改善策は難しいですが、まずは、第1回の講義時に、授業計画やシラバスの説明だけでなく、本科目の必要性や魅力を時間をかけて説明したいと考えている。そして、小テストに加えて、レポート提出も考えていきたいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況の総括的評価としては、達成できたである。しかし、授業内容に関心がない、学習時間を確保しないなどの課題が残っている。その課題の解決を中心として、次の講義の改善をしていきたい。

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フードスペシャリスト論	1	前期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①資格取得を目的とする教科であるため、テキストに沿った内容を中心に授業計画を立てた。当該科目は、「食」に関わる歴史、文化、流通など多岐に渡ることから、授業の中で、重要な点ならびに資格試験への出題率が高い箇所を学生自身がまとめられるためにプリントを作成し、スライドを利用して授業を進めた。 ②学生の受講動機は、「資格取得に必要である」57.1%、「関心のある内容である」37%、「単位数を確保する」40%となっており、資格取得に対する意欲や関心が高いため、資格試験に向けての取り組みは重点的に行う必要がある。また、それ以外にも「食」に対する関心が高いことが窺えるため、食に関する様々な知識を享受することは重要である。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	◎成績評価 最終的な成績の平均値は74点であり、再試対象者は3名であった。90%が標準レベルに達し、そのうち理想的レベルに達したもの（80点以上）は14名（45.2%）であったことから、教育目標ならびに知識理解においては達成できたと考える。 ◎授業アンケート結果 学習達成度の自己評価の「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目では、平均値4.3、「的確に判断する力」「学びを深めたい意欲」では平均点4.3、であった。授業アンケート結果における知識理解に関わる項目から、おおむね達成されたと考えられる。 学習量の評価において、「30分以上の復習」を行ったと答えた学生は17名/31名であった。しかしながら、0回であると13名が回答している。知識の定着や理解度の確認のためには重要であり、3年次で受験する資格試験合格にもつながってくるため、今後も復習の重要性を促していきたい					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。「食」に関する歴史、文化、食品産業の仕組み、食に関する法律、食糧事情まで幅広い教養を身に着けられる科目であり、学生も一定の成績を収めている。また、受講動機で最も多かった「資格取得のため」の観点からみても、資格取得のためには最も基礎的かつ必要な知識であることから、内容的にも妥当であったと考える。 ② DPからみた内容の妥当性 成績評価から90%が標準レベルに達しており、基礎的な教養が身にについていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1 年生前期の授業ということもありゆっくりとしたペースで授業を行うことを心がけた。また、1 年生では理解が難しい専門基礎教科関連の項目においては、補足資料を追加して授業を進めた。授業アンケートを見ると、「説明も理解しやすい」の項目は4.3であり、「わかりやすかった」とのコメントが見られたため、その点についてはカバーできていたと考える。授業の翌週には、資格試験に出題されやすい箇所を重点とした問題を作成、し小テストを実施することによって知識理解の向上につながったと考える。小テストの実施という事で、それに向けての勉強や授業の復習を行ったというコメントが多数みられた。また、「提出物などの評価基準」「学習の範囲や課題が明らかである」の項目ではいずれも平均4.5となっており、事後学習等も進めやすいものであったと判断した。食に関する文化や歴史、環境問題など、講義内容は多岐に渡るため、授業後の自学する時間の確保に効果が出ていると感じた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	資格試験取得を目的とした科目であるため、単位修得だけではなく資格試験対策も視野に入れて授業を計画し進めた。成績は90%が標準レベルに達していたことから目的は達成できた。また、課題以外の学習では、「取り組んだ」と回答した学生が18名/31名であり、プリントの見直しなどのコメントが多数みられた。来年度も事後学習を取り組んでもらうよう促していきたい。「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど…」の項目では、平均値が3.4とほかの項目に比べて低いが、資格試験の対策を視野に入れて授業を計画している事が原因と考える。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
フードコーディネート論	3	前期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①この科目はフードスペシャリスト認定試験受験資格として、必要な必修科目である。そのため「専門教育科目」、「専門基礎分野」の選択科目である。必要科目12科目のうち、この科目を含む2科目のみが3年前期で開講され、その他の科目は2年生までに履修済みである。 そのため、3年後期12月に実施される認定試験の準備は、個人の計画的な自己学習にかかっている。 ②受講動機は「資格取得に必要である」が82%で資格取得希望者が多いと見受けられた。また、「単位数を確保する」が12%と多く、資格取得のための受講者でない割合が近年増加している。 ③出題範囲の講義を行い、その後過去問を配布し、繰り返し学習するよう促した。また、2年生までにすでに履修した科目の復習をすすめ、栄養士実力認定試験の勉強と併せて学習するよう促した。 ④過去問や専門問題などの印刷物を配布し、授業の復習レポートと過去問題を課題とした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の自己評価到達度の平均と中央値は、「知識を確認、新たに知ることができた」が4.0、4.0点であり、認定試験合格に寄与していると考えられる。 また、成績平均値は83±10.9点であった。理想レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していたのは26名中19名(73%)であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」の選択科目で、フードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。授業準備の欄で指摘したように受験に必要な科目は12科目。そのうち、当該科目を含む10科目は2年生までに履修済みで、本科目を含む2科目のみ3年前期に開講される。そのため、12月に試験が実施されるまでの動機付けに苦慮する面がある。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 過去問をよく学習しており、問題内容もよく熟知され、問題数も少ないため成績が非常に良かった。 ③まとめ 以上から、認定試験用の受験科目の1科目としては内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	認定試験受験科目であるため、講義の内容は過去問出題率の高い項目を重点的に周知させたい。 定期試験の日程が他の必修科目と重なった場合、選択科目である当該科目の試験対策がおろそかとなる可能性が高い。そのため、日ごろからしっかりと復習を行い問題に慣れ、解答できるようにと促した。 選択科目であるフードコーディネート論は出題内容や出題傾向が過去問等で開示されている。また、認定試験の12科目の1科目にすぎないため、テキストの読み直しと過去問を繰り返し学習することが必須である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義後復習のためのレポートの提出を実施した。また、その章にかかわる過去問を提供し、あわせて課題として提出させた。 当該科目は、選択科目であり、任意の認定試験であるため、受験の有無によって学習意欲に差がみられた。資格取得のために受講する者と単位数確保のためだけに受講する者との学習意欲の差が顕著であった。 学習レベルを資格取得レベルに基準をおき、過去の出題数が多い内容に重点を絞りに行った。また、講義内容が単調にならず、飽きさせないようスライドの工夫を行ったり、動画の視聴なども組み込んでいる。 複数回的小テストの実施により、問題に慣れされることが、合格レベルまで学習能力を引き上げる要因であると考えている。

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生化学実習	2	前期	必修	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①実験を中心とした実習科目であることから、本科目は元来、事実や結果を客観的かつ正確に観察し、その上で論理的に解析、考察に取り組むことに重点を置いている。講義科目である生化学ⅠおよびⅡで講義した内容との連動性を重視している。座学で得た知識や論理をいかに実践の場で活用し、さらに発展させる力を養うことを目標とする授業である。本年度は15回すべてを対面方式で行うことができた。今回の受講動機は、「必修科目である」100%、「資格取得に必要である」26%の2つに集中しており上位であるのは例年通りであったが、一方、「関心のある内容である」が17%と例年よりは高かった。 ②例年用いている私が作成した実習書に必要な変更や改訂を加えて配布した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終成績の平均は68点、不合格者は出席回数が不足した受講放棄者2名であった。うち、優（80点以上）の成績を修めた学生は、3名であった（昨年度2名）。本科目の成績評価は、レポート60%、授業への取り組み40%で行っている。レポートでの評価内容の内訳は、知識理解20%、思考判断35%、関心意欲5%、一方、授業への取り組みでの評価内容の内訳は、知識理解10%、思考判断25%、関心意欲5%である。実験中に観察された事実、あるいは実験から得られたデータを客観的かつ正確に把握し、それらを論理的に解析することにより結果を導き出す、あるいは疑問点についても論理的考察を加えることを学生に要求し、それらの点を評価した。ほとんどの学生が実習にまじめに取り組んでいたこと、またそのかなりの割合の学生が積極性や意欲も見せていたことが、実習への取り組みに対する比較的高い評価に結びついた。本年度は積極性や意欲の高さを反映して高得点者が増加した。座学に比べて実習は、教科書的な丸暗記等だけでなく、予想しない結果がもたらされることが多い実験において、得られた事実を論理的に分析する力あるいは意欲が要求され、ペーパーテストに比べてレポートの特典はやや低いものになりがちであった。レポートの評価が低いもう一つの明らかな要因は、文章の稚拙さ、不正確さ、および用いた記号や語句の定義がなされていないなど、国語力に根ざしたものである。また、不自然に似通った文章や論理展開を含むレポートが複数見られたことも低評価の要因である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。平均点や合格率だけをみると、内容的には妥当と考えられるが、学生が考える力をつけるという数字には表れにくい点について、これからも引き続き改善を目指していきたい。 ②DPでの位置づけは、知識理解、および思考判断を問う科目である。前者に関しては、おおむね妥当な内容であったと考える。思考判断に関しては、今後の課題となる。 全体としては、おおむね妥当な内容であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.6で、本年度は低かった。説明の仕方、実習書の図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているが、さらなる精査に取り組むことにする。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう、心掛けたい。また実習書にも改善を加えたい。特に図表はより見やすいものにできないか検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度の合格率、平均点とも過去の平均程度であった。座学の成績から考えるともっと好成績を期待したい。学生に実践の場で考える習慣、力をつけさせる工夫を模索していきたい。次年度は、本科目が生化学の講義内容と連動していることをさらに強調し、学生の意欲促進を目指す。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品栄養実習	2	前期	必修	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の受講動機は「必修科目である」が100%、「資格取得に必要である」20%であり、栄養士、管理栄養士免許取得には欠かすことのできない科目である。加工食品を製造する過程で、食品の特性や変化を実際に確認し食品学Ⅱで学んだ知識の定着に繋げることに重点を置いた。 ②実習の際には、まず講義を行い、基本となる製造工程や実習において特に確認してほしい食品成分の変化などを説明した。また、示範を行い製造する上でのポイントなども細かく指示をして取り組ませた。実習においては学生自身で考え協力して取り組んでいる様子が見られた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	◎成績評価 成績の平均値は78点であり、再試対象者は0名であった。そのうち理想的レベルに達したもの（80点以上）は22名（57.9%）であった。 ◎授業アンケート評価 学習達成度の自己評価の「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目では、平均値4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の項目では、平均点4.3、「必要となる技術を身につけることができた」では平均点4.3であった。 授業アンケートの到達度自己評価ではすべての項目で4.0前後、成績評価においては十分な成果を得られていたため全体を通して、教育目標が達成できたと評価した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品学Ⅰおよび食品学Ⅱで修得した知識を、実習を通して定着させ、さらには技術の修得も行うことができる科目であり、学生も一定の成績を収めているため、内容的にも妥当であるとする。 ② DPからみた内容の妥当性 成績評価から履修者全員が標準レベルに達しており、専門的な知識や技術を修得できたと判断される。また、4～5名のグループで実習を行うことで、協調性やコミュニケーションなど、社会人としての基礎的な教養も身につくことから、内容的に妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度、実習内容の変更を行っていたため、本年度は昨年度同様の内容で実習を行った。実習では、可能な限り2種類の食品を製造させ、材料中の成分や含有量の違いが完成品の味や形、食感の比較を行い、食品成分の違いによって製造する食品の嗜好性に違いが出る事、食品成分の特性を理解しやすいものとした。これによって、原料食品の特性をより体感できたと考えている。授業の質の評価では、「評価基準が明らかであった」平均値：4.4、「学習の範囲や課題が明らかであった」平均値4.6、「説明は理解しやすい物であった」平均値4.5、といづれの項目においても高い評価が得られており、学生からも授業の進め方の評価を概ね得られていると思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「専門基礎分野」に位置づけされている。食品学Ⅰおよび食品学Ⅱで修得した知識を、実習を通して定着でき、さらには技術の修得についても達成できた。また、グループで実習を行うことで、協調性やコミュニケーションなど、社会人としての基礎的な教養を身に着けることにも繋がったと考えられる。実習では、原材料を変え、2種類の加工食品を製造させ比較することによって、食品の特性をより理解することができ、様々な思考判断力も修得できたと思われる。また、実習を行う学生の姿勢も、積極的に取り組んでいたため次年度以降もなるべく多くの食品を製造し、学修してもらいたいと考えている。

学科	栄養学科
氏名	木村 宏和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品衛生学実験	3	前期	必修	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本実験は卒業必修科目かつ管理栄養士国家試験受験必修科目である。受講動機をみると、「必修科目である」に回答している学生は100%であったが、「資格取得に必要である」と回答した学生は36%しかいなかった。また、「関心のある内容である」と回答した学生が4%であり、学生の実験に対する関心がほとんどないことがわかった。本実験は3年生で開講される専門基礎科目の最後の学生実験であり、学生実験の集大成的要素がある。基本的かつ大切な実験技術の確認、そして、学生がより関心を示すと考えられる日常生活に活用できる衛生管理に関する実験技術の習得に重点をおいて実験計画を立てた。さらに、昨年度の改善事項として「短時間で説明可能な実験方法のポンチ絵を準備する」ことを記載した。本実験では、すべての実験項目ではないが、パワーポイントを使った実験方法のポンチ絵を準備して、学生の理解度向上に努めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された			やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本実験の成績の平均値は82(±7.6)点であった。思考判断に関しては、到達度自己評価の項目の「様々な課題を検討する力を得ることができた」について、「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と回答した学生が57%、「的確に判断する力を得ることができた」について「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と回答した学生が64%であった。そこで、やや達成されたと判断した。技能表現に関しては、到達度自己評価の項目の「必要となる技術を身につけることができた」について「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と回答した学生が61%、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」について、「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と回答した学生が68%であった。そこで、やや達成されたと判断した。以上の結果より、全体を通して、やや達成されたと判断した。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の目標達成状況の結果は概ねやや達成された結果が出ている。また、本科目は、食品衛生に関する実験科目なので、食品学Ⅰ、食品学Ⅱ、食品衛生学の次に配置されているのは妥当であると考ええる。一方で、自由記述の意見の中に、「何をしたらよいかわからない」、「やり方がわからない」などの意見がある一方で、「授業で学ぶことがたくさんあった」、「食品衛生学についてよく学べた」などの意見もあった。総合的に判断して、D P、C P、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性については、妥当であると考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方について、自由記述で「やり方がわからない」や「課題が多かった」、「課題の調べ学習でいっぱいいっぱいであった」との意見があった。課題数を少し減らすように改善する。また、同様に、自由記述の中で、「実習書の実験手順が省かれてることが多すぎて手順がわかりにくかった」との意見があった。この点について反省し、次回は実験操作をわかりやすく書くように改善する。 食品衛生学実験を含む基礎系の実験は化学の知識がないと理解できずに難しい科目で、苦手科目に入っている。今後も実験操作や考え方を学ぶだけでなく、実験中に起こる様々な化学反応についての情報や、実験内容と衛生管理の関わりについてわかりやすく説明をし、「科学の楽しさ」を感じてもらうように努めていく。
7. 総合的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総合的評価と課題をお示しください。	学生の目標達成状況の結果は概ねやや達成された結果であり、達成状況の総合的評価は概ねよかったと判断している。しかし、課題数や実験手順の記述の仕方など、まだまだ改善すべきことがある。これらを改善し、学生のさらなる関心・意欲・理解の向上につなげたいと考えている。

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎調理学実習	1	前期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①実習内容（献立）を事前に知らせ、技術の必要な献立は動画を視聴してもらい、当日の実習がスムーズに行われるように促した。 ②レポート提出後の修正や指導は、クラスルームを通して、個別指導を徹底した。 ③調理初心者の学生であるため、安全面や衛生面の指導を徹底し、事故のないように配慮した。 ④楽しく、おいしくをモットーに実習を行った。 ⑤実習内容（献立）は、基本的ものであるが、できるだけ自宅でもう一度調理したいと思えるような手軽でおいしいメニューに心がけた。 ⑥実習の最終日には、食事計画（献立作成）から食材の購入、調理、盛付けなどを各自で行い作成したお弁当についてプレゼンを行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の評価点は87.3±6.4点であった。90点以上が37％、80点代が49％、70点以上が14％であった。 到達度自己評価の平均値と中央値は（1）目標の達成：4.3、4.0、（2）知識の確認修正：4.5、5.0、（3）事象を理解する考え：4.1、4.0、（4）課題を検討する力：4.4、5.0、（5）的確な判断：4.4、5.0、（6）学習意欲：4.4、5.0、（7）必要とする技術の習得：4.5、4.0であった。この結果より、学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断、技術などが習得できたと考えられる。 授業の質の評価では（1）課題の評価が明らかであったは平均点4.4、中央値5.0、（2）学習範囲や課題は明らかであったは平均点4.5、中央値5.0、（3）説明は理解しやすいものであったは平均点4.4、中央値5.0であり、総合的に理解しやすかったと考えられる。 最終課題は、自宅での弁当作成とそのプレゼンである。食材の買出し、調理器具の使用法、加熱器具の取扱いなどのほか、調味料や食材の計量から盛付けに至るまで、ひとりで対応しなければならないため苦戦を強いられるが、専門的知識や技術の習得において自己評価が比較的高いのはこの効果であると推察される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や技術の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。 ③まとめ 以上から、容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の(4)「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」では平均点4.1、中央値5.0であった。 基礎調理の習得であるため、様々な料理を複数回こなすことで技術や知識が身についていった。上手くできないことでも、班で協力し合い、しっかりと打ち合わせや役割分担を決め、作業に取り掛かっている様子がうかがわれた。 実習内容に余裕があれば、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業も組み込んでいきたい。 また、実習であるにも関わらず、欠席者が目立った。決められた短時間内に班員で協力しながら作り上げる調理実習での欠席は、グループワークでの主体性や協調性を崩しかねない。後期の調理学実習では、実習を欠席する学生に対してしっかりと指導していきたいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	昨年に比べ、自己評価や授業の質評価は上がったが、成績が下がっている。基礎学力の向上や自学時間の確保を促す施策が必要であると感じた。 予習を行わずに調理実習に参加すると、材料配分や計量間違いなどを起こすため、作業効率が悪く、食材を無駄にしまうこともある。 対策としては、実習前の予習(作業工程表の作成)を行い、工程表をもとに調理実習に臨むようにしている。 また、調理技術やコツが必要な献立に関しては、動画等を事前に視聴してもらい、イメージを膨らませて実習に参加するよう促した。1年次の基礎調理であるため、混乱は免れないが、一人でできるようになるために実習を重ねていく。また、さらなる調理技術を身につけるため、自宅で調理を行うなど、自発的に行動するよう促している。同時に、栄養価計算のための知識や調理学、食品学、栄養学に至るまでの知識の習得も必要となるため、提出されたレポートの内容から理解が不十分であるとみられる学生に対しては、個別指導を行っている。 当該科目は、「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけるため、基礎的知識の形成については概ね達成できている。しかし、「実習中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の評価がやや低いため、実習前に「話し合う」などの時間を取り、グループ内で打ち合わせなどを活発に行えるような時間(余裕)を持てるよう検討が必要である。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床基礎医学実習	3	前期	必修	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①管理栄養士は、医療の現場において対象者の栄養状態や健康状態を把握したうえで、栄養管理や指導内容を設定することが重要になってくる。医療チームの一員として医療現場の実理解するために、医療面接・身体診察法・生理検査法等に関する知識を修得できるように実習内容を設定した。 ②最初のオリエンテーション時に、まず手洗いの重要性を理解するための手洗いチェッカーを利用した実習を実施した。 ③生活習慣病に関して病院で実際に実施される検査を体験できるように、腹部エコー検査や血圧脈波検査などを実施した。 ④女性特有の疾患について理解し、将来のリスクを自覚できるよう、乳房触診モデルを利用した実習を実施した。 ⑤認知症等、社会問題と関連づけて学ぶ実習を実施した。 ⑥各実習の最初に、臨床医学検査と疾病との関連についての知識を確認するために、プリント資料を利用した講義および質疑応答形式による導入を行った。 ⑦実習の終了後には、実習時間内にレポートを作成するよう課した。その後に解答例を提示し、実習時間内に知識を定着させるよう努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	実習内容と疾患との関係については2年生の疾病診断治療学にて学んでいるが、各学生の学修準備度はさまざまである。できるだけ多くの学生が検査を実際に体験できるようにし、グループワーク・事例検討や質疑応答の機会を増やす等、主体的に参加する工夫を行った。レポート作成に際しては、インターネットを利用して情報検索することを取り入れた。参考となるURLを提示し、信頼性のある情報を得る方法について指導した。 学習到達度の自己評価は、概ね4.0～4.2点であり、昨年と同様であった。女性として知識を得ておくべき乳がん検診に関する実習や脂肪肝の診断に役立つ腹部エコー検査を実施したことなどは、「新たな知識を得ることができた」「技術を身につけることができた」などの満足度につながったものと考ええる。また「社会を理解する視点や考え方を得ることができた」「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の項目は自己評価が高かった。禁煙指導・節酒指導などの受診者指導のみならず、各検査が必要とされる背景、認知症や高齢社会から生じる社会課題等についても学ぶ機会を作ったことが、視野を広げて課題を考えることにつながり、自己評価の向上に寄与したものと考える。ほぼ全員が自分なりの目標を達成できたと答えており、10項目中9項目においては「かなりそうだと思う」と考える学生が最も多かった。 これらのことより、教育目標は概ね達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される分野であり、また管理栄養士として就業するにあたっては高度の医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による自己評価において、ほぼ全員が自分なりの目標をある程度達成したと考えていることから、内容的に妥当であったと考える。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 管理栄養士国家試験に出題される領域のみならず、就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して実習内容を構成した。全員が、学びを深めたいと意欲を持つことができた肯定的に自己評価しており、内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上より、内容的妥当性に問題は無いと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による学習到達度自己評価は、10項目中9項目において4.0～4.2点と肯定的であり、ほぼ全員が自分なりの目標を達成したと答えている。授業の質評価は4.1～4.3点であり、特に「自分の意見をまとめる、話し合う、発表する」など、学生が参加したり質疑応答したりする機会が作られていたことへの評価は、高かった。双方向性の実習への取り組みが評価につながっていると考える。今後も発表の機会を増やし、興味を引く事例を提示する等により、モチベーションを高めることができるようさらなる工夫を重ねていきたい。なお自由記述にて、他教科の課題が多いために授業外学習時間を確保することが難しいとの訴えが例年多いことより、実習時間内にレポートを作成できるよう時間配分し、実習時間の中でレポートの解説まで行った。実習時間内に集中して取り組んだとの声を複数いただいたことから、知識を効果的に定着させ、学生の満足度を高めることにつながったものと思われる。 インターネットを利用したと答えた学生は46%であったが、これは1年次や2年次の学習における利用率よりも高い。実習を通して、興味・関心を持ち、主体的に学ぼうとする意欲を持つ学生が増えてきたことが伺える。インターネットは重要な学習ツールの一つであるため、実習の中で、情報を検索し出典の確かな正しい情報を選ぶ方法について指導した。今後もインターネットを正しく活用するよう指導していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	生活習慣病に関して病院で実際に実施される検査を体験できるように実習を設定したことは非常に有意義であった。また高齢社会等の社会的状況と関連付けた実習は学生の関心を高めることにつながったと考える。効果的に発表・グループワークや質疑応答の機会を持つことができ、専門基礎科目にあたる本科目における臨床的基礎知識の修得については概ね達成できたと考える。実習レポートの内容に関しては、事例を検討する自由記述に加えて、疾患に関する重要知識を設問として問うた。これによって、これまでの授業で学んできた疾患と実習で学んだ事例とを関連付けて理解しやすくなったものとする。また、実習レポート作成を含めて実習時間内に効率的に知識を定着できるように取り組んだ。医療の世界では、診断や治療のみならず施策などの変化も速いため、管理栄養士に求められる最新の医学的知識を得ることができるよう、今後も実地に即した実習内容へと適宜更新し、学生がより主体的に取り組み、意欲関心を深めることができるよう工夫していきたい。

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①応用栄養学Ⅰは、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が100%であることは当然の回答である。「関心のある内容である」が20%と低いことに関しては、学生の関心をひきつけるような講義の実施が出来なかったことも推察されるため、講義内容の見直しも図りつつ、続く応用栄養学Ⅱの講義に関心をもって臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。しかし毎年度、関心のある内容である、に関しては、20%台以上にはならない。（←おそらく「①の必修科目である。」のみを選んで複数回答をしていないことも考えられる。） ②講義では、これまでと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。また、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえた。小テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく予定である。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、試験結果から評価した。結果は、A(秀)が10%で、B(優)が19%であり、C(良)が17%、D(可)が26%であった。不可の学生は21%であった。DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みにて評価をおこなった。受講生80%が標準的レベルに達しており、10%の学生が理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、約51%の学生が講義の課題以外に学習に取り組んでいない、また約51%が予習および約37%が復習を一度もしていなかった。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことをアンケートの自由記載のところに書いている学生が多かったため、学修時間の確保に関しては学科全体で検討していく必要がある。また対面講義ではこれから小テスト返却による復習の促しを続けていきたいと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目（基礎から専門への入り口科目）でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果、授業アンケートの自由意見から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、50%以上の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は57%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だというのが学生たちにあると考えられる。また、講義の初回にシラバスを配布し、一緒に目を通してため、その後にシラバスを参考にする必要がなくなったことも考えられる。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促した。昨年度に比較すると予習・復習を実施した割合が上がっているため、今後も同様の方法で予習・復習を促していく。さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからは講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養教育論Ⅱ	3	前期	必修	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目の前座科目である『栄養教育論Ⅰ』において小テストや講義資料の活用方法等を周知できていたので、本科目への導入は非常に円滑であった。 ②今回の受講動機をみると「必修科目である」が94%であったのに対し、「関心のある内容である」は9%と低く、単位取得のための受講の認識が高いことを示唆するものであった。 ③授業の最初に、将来の希望職種に関する調査を行い、病院や保育園における管理栄養士や食品企業での就職を目指す学生が多いが、まだ定まっていない学生も一定数いることを確認した。そこで、将来的に母親や家族の介護者等になる可能性にも言及し、職業だけではなく、日常生活など広い視点で関心が持てるように配慮した。管理栄養士としての就職を希望している学生の就職先の分野は、保育園や小学校、病院、行政等、多岐に渡っていたので、様々な対象における知識が深まるよう配慮した。 ④授業の始めに毎回、確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終試験の得点の平均値（±標準偏差）は91.7（±5.8）点であり、90点以上が76.5%、80点以上90点未満が17.6%、70点以上80点未満が5.9%で、9割が80点を超える理想的レベルに達した。平常点を加味した最終的な成績の内訳は、Aは3人(8.8%)、Bは17人(50.0%)、Cは10人(29.4%)、Dは3人(8.8%)、Eは1人(2.9%、再試験により最終的にはD判定)であった。 項目別に見ると、知識理解を問う問題（80点満点）の得点の平均値（±標準偏差）は75.4（±4.4）、思考判断を問う問題（20点満点）の得点の平均値（±標準偏差）は16.3（±2.6）点であったことから、知識理解及び思考判断ともに目標が「達成された」と判断した。意欲関心及び態度については講義への出席率や毎回の小テストの成果から判断して「達成された」、技能表現については発言の積極性に個人差が大きかったこと等から判断して「やや達成された」と判断した。 学生による授業評価においては、学習量について「30分程度以上の復習」を「0回」と回答した学生が約30%みられたが、毎回の小テストでは点数が取れている学生が多かった。ポイントを絞っていたため短時間で復習できた可能性が考えられる。					

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、必修である。管理栄養士国家試験の受験科目の一つでもあることから、様々な理論の理解が求められると同時に、就職後の現場で活かすための実践的思考力を身に着けることも重要である。事例を多く交えて、ライフステージ別栄養教育の理解が進むように工夫し、学生も、小テスト及び本試験において一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DP到達度自己評価における平均値は全ての項目において3.9～4.4であり、否定的回答は少数であった。コミュニケーション力や表現力に関しては実習科目の中で十分に補填しており、本科目は知識の定着に主眼を置いていることことから、内容的には妥当であったとする。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	小テストの取り組み方にばらつきはみられたが、一部の学生を除いて多くの学生が真剣に小テストに取り組んでいた。昨年に引き続き、小テストは自己採点ではなく、テスト実施後に回収して教員が採点、その後同じ問題を再度配布して、解答を赤で記入させる方式に変更した。これにより本試験の前に赤シートを用いてスムーズに復習ができたと推察される。 小テストに出るポイントとなるキーワードをスライド中に指差しマークで示し、但し、マーク表記されたスライド内容はキーワードだけではなく、全体を復習・習得する必要性を入念に伝えた。昨年はキーワードだけを覚えようとする学習姿勢が一部にみられたが、今年度は総合的理解を深めようとする学習姿勢に少しずつではあるが、移行できているようであった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	臨地実習に臨む上で、さまざまなライフステージにおける栄養教育の方法論を学ぶという観点から、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、本科目の自発的学習に「取り組んだ」学生が56%、「していない」学生が44%と、4割以上が取り組まなかったことは課題である。取り組まなかった理由として、「時間がなかった」や「他の課題をした」等が挙げられていたが、一方で「授業だけで十分だったから」や「授業がわかりやすかったから」等の意見もみられた。「時間が無い」と感じている学生が毎年見受けられるため、個々の生活状況や他教科の課題等について学科の教員と連携して対策をとる必要があると考えている。「授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習」において「小テストの勉強」との回答が大変多くみられたことから、小テストを実施することによって本科目に対する自学意欲が高まったと推察される。 最終試験の知識理解を問う問題の正解率が非常に高かったことから、一定の知識が定着したと判断する。一方、思考力・判断力を要する問題の正答率は8割弱であったことから、応用力を高められるように、記述問題への取り組み方等についてもしっかりと教示する必要性があると感じた。なお、今年度は知識理解を問う問題の割合を増やしたことで高得点者が多かったが、次年度は応用力を問う問題の割合を増やすことを検討したい。 以上から、小テストの実施を継続すること、キーワードだけに着目せず総合的に学習する力をつけさせること、応用力の養成に力を入れること、に留意していきたい。

学科	栄養学科
氏名	渡邊 和美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	医療機関に従事する管理栄養士は、栄養サポートチームの一員として栄養管理を担う。適切な栄養管理は、治療の促進、合併症発現の抑制、入院期間の短縮、ひいては、医療費の削減に繋がるため重要な業務である。本学科では、実務家教員として傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために必要な、各疾患の成因、病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について解説した内容について、学生が修得することに重点をおいた。学習準備性については、準備しない学生は47%であった。一方、1回30分程度以上の準備・復習については30分程度以上やったのが50%であった。小テストの勉強やノートにまとめたりわからない医療用語などを調べる時間充てていた。毎回配布資料を配っているが、穴埋めプリントのスペースが狭くて書きにくいとあった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77.2点（±13）であり、再試対象者は5名であった。標準的レベルに達した学生は33%、優秀レベルに達した学生は38%であった。授業評価アンケートからは知識を確認、修正、新たに得ることができたが34人中33人と97%の学生が回答している。また学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討したり、的確に判断する力を得ることができた、学びを深めたいと答えた学生も97%から100%であった。テスト、レポート、提出物の評価基準、期間内に行うべき学習の範囲や課題についても100%であった。説明は理解しやすいものだったについての項目は、1名の学生は少しそうでないと回答したが、その他の学生は概ね理解しやすいと回答している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性について、本科目は管理栄養士国家試験の受験資格に必須科目である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性について、成績評価から栄養管理方法や薬と食品の相互作用の説明の問題については比較的正確率が低かった。一方、栄養補給法の種類や特徴および適応疾患についての列挙は概ねできていた。以上から、内容的妥当性には問題がないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価では、授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていたものについては、34人中7人がそうでないと回答した。しかし講義形式の授業ではあるがクイズ形式で答えてもらうスタイルの授業でもあるため約80%（27人）は作られていると回答している。予習・復習回数に関して、34人中16人は0回であったが、1回～6回と予習する学生も約50%（16人）いた。授業中に使用するスライドの文字が少し小さいとの意見があったので、次年度調整したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目であり、臨地実習および卒業に必要な科目である。基礎的知識の形成については概ね達成できたとあり、専門分野の様々な課題を検討したり判断したりする力を持てた学生は100%に近いことから総括的評価も概ね達成できたとと評価できる。一方、学習量の評価では50%の学生は授業に参加するための準備期間など設けておらずこの点は課題を残した。以上のことから、今後は復習課題として小テストを実施する際には授業中に可能な限り考える時間を取り、内容の整理ができるような授業となるように工夫していきたい。学生からの意見として、プリントの穴埋めのスペースが狭くて書きにくいとあったので改善したい。

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆栄養学Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「公衆栄養学Ⅱ」は専門教育科目であり、管理栄養士国家試験受験資格に必修科目であるが受講動機をみると「必修科目である」が92.0%、「資格取得に必要である」が36.0%であり、約4割の学生しか国家試験受験資格に必要であることを理解していない。また、「関心のある内容である」が8.0%と低いことは、この講義への関心の低さを示唆するものであった。授業に関心をもって臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。 ②授業準備について、「予習復習を実施し授業に臨んでいる」52.0%、60.0%と半数の学生が予習復習をしているが、「授業の課題以外に学習に取り組んでいる」学生は16.0%と少ない。その理由として、他科目の課題が多いことがあげられており、事前事後学習の時間が十分に確保できないのが現状である。毎年、他科目の課題におわれ、この授業の予習復習や自主的に調べる時間が取れないことから、地域において健康・栄養改善のために何が行われているかイメージできるように、事例を多く紹介し、公衆栄養プログラムに興味を持つように工夫していく必要がある。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	DP2-1(思考判断)、DP3-1（意欲関心）、DP5-1（技能表現）に関しては、試験およびレポート結果から評価した。結果はA（秀）が2.5.%で、B（優）が17.9%であり、C（良）が28.2%、D（可）が51.3%であった。平均値（±標準偏差）は70.5（±9.0）点であった。					
* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。	学生による授業評価においては、思考判断の観点では92.0%、意欲関心の観点では92.0%、技能表現の観点では92.0%の学生が肯定的回答をしていたが、一部に否定的回答もみられたことから、次年度は全学生が自己目標を到達できるように授業の内容や進め方を改善していきたい。					
< 授業評価の指標 > 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、管理栄養士国家試験の受験科目の一つでもある。公衆栄養学Ⅱは、公衆栄養学Ⅰを理解した上で地域での様々な課題に対応した事業企画能力が求められる。また、実践的思考力を身に着けることも重要である。行政管理栄養士が実際に行っている業務の紹介を多く交えて、理解が進むように工夫している。授業の質評価で「説明は理解しやすいものであった」の項目に関する評価が80.0%であったことから、学生が理解できるように工夫する必要があると反省させられた。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 自己評価において「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目に関する評価が92.0%であったことから、内容的には妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」では平均値が3.5～4.1であり「説明は理解しやすいものであった」が3.5と低いことから、授業の説明や進め方に工夫が必要である。また、「学習量の評価」では予習復習を一度もしていないと回答している学生が約4割以上、さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生が28.0%いることから、講義の初回にシラバスを配布し説明を十分に行い、まずは、課題をとおして自己学習の仕方を修得し、短い時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう丁寧に指導していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、臨地実習（公衆栄養学）に必要な科目である。学習到達度の学生自己評価から、概ねDPを達成できたが、予習・復習や授業外の学習量が少なかったことは課題である。今後は学生が自ら考案・発表させるような工夫をすることにより、知識の定着を図れるように取り組んでいきたいと考える。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	永田 純美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
給食計画論	2	前期	必修	はい	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は臨地実習Ⅰの要件科目である。また、論理的に給食経営管理について学び、その知識を実践の場である給食経営管理実習に活かすための科目でもある。 ②受講動機をみると「必修科目である」が100%、「資格取得に必要である」が25%、「関心のある内容である」が6%であった。 この結果より、講義への関心は低いが必須科目のため受講しなくてはならないこと、また、資格取得よりも必須科目であることが優先されていると思われる。 ③実践のための理論を学ぶため、知識を実践でどのように活かしていくのかを演習も交えて講義することを心がけた。また、小テストや管理栄養士国家試験問題を解き、知識の定着が図れる工夫をした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達自己評価は平均値3.5～4.3点、中央値3.5～4.0点となり、全体を通してやや達成されたと考えられる。特に（2）知識を確認、修正したり、新たに得ることができたについては平均値が4.3となり、小テストや国家試験問題を解くことにより、知識の確認や定着に結びついたと考えられる。 知識理解（DP1）は定期試験、思考判断（DP2）、関心意欲（DP3）を小テストにて評価した。定期試験の結果は平均点62.5±22.3点となり、標準的な理解度は得られた。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は専門教育科目の専門分野に該当する。臨地実習Ⅰの要件科目であるため、受講動機においても「資格取得のため」が44.4%と「必修科目である」に次いで多い。授業の質評価で「説明は理解しやすいものであった」のそうだと思うと回答した学生は96.3%であったことから、内容的には妥当であると考ええる。 ②D P, 行動目標からみての内容的妥当性 授業の質の評価は平均点3.5～4.0点、中央値4.0点であり、全体的な授業の質としてはおおむね良好な評価であった。到達自己評価も同様の結果を得ることが出来たことから、内容的には妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価より、授業に参加するための準備をした学生が46.9%、授業を振り返るための復習をした学生が59.4%であったため、小テストや演習を盛り込むことにより、予習や復習をするきっかけになったと考えられる。授業記録については96.9%の学生が「主に配布資料に記録した」と回答しているため、授業資料が有効に活用できていると思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義全体としてはおおむね良い評価ではあった。また、学生からの意見等もなかった。学習量の評価により、小テストが予習・復習のきっかけになったと思われる。引き続き、小テストや演習、管理栄養士国家試験問題などを盛り込み、聞くだけではなく、聞いたことについて考えて応用できるような講義を目指したい。受講動機としては、「必須科目である」が100%であったが、臨地実習Ⅰの要件科目であること、栄養士・管理栄養士の資格取得に必要な科目であるため、必須科目ということだけでなく、専門職としての知識を修得するための科目であることを伝えられるような講義内容にできるよう努めたい。さらに給食経営管理について興味をもってもらい、給食経営管理実習や給食経営管理論に繋がるような講義にしていきたい。

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用栄養学実習	3	前期	必修	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①応用栄養学実習は、講義の応用栄養学Ⅰ、Ⅱの実習科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が95%であることは当然の回答であり、「資格取得に必要である（27%）」「関心のある内容である」が9%と低いことに關しては、昨年度同様、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ（2年前後期）の講義が、学生にとっては関心を引き付けるような内容でなかったことや、本実習科目を応用栄養学の実習科目であることの理解につなげることが出来なかったことが考えられるため、講義における応用栄養学の内容に関して、次に続く実習に結び付けながら学生のモチベーションを保ちつつ、本実習に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。 ②今年度も対面での実習の実施であった。内容や進行は、今までと同様、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養補給法のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養学上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えている。授業評価の自由記述には、興味を抱くことが出来たと考えられる意見が挙げられており、今後も試行錯誤しながら実習内容の検討を続けていく。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今回はDP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)、DP4(態度)やDP5(技能・表現)までを、レポート課題や献立課題および試験結果から評価した。結果は38名の受講生中、A(秀)が11%、B(優)が32%で、C(良)は26%、D(可)が16%と秀および優で約43%と多かった。A(秀)やB(優)の学生が多いことは、意欲・関心を持って受講したことが考えられる。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断、意欲関心そして技能・表現、態度全てにおいて自己評価が高い。この実習への関心の高さは、課題内容と自己評価で判断することが出来た。また学習量の評価では、77%の学生が予習および復習を行っていた。このことは課題の提出が義務であったからという理由も考えられるが、シラバスにおいて予習・復習をする具体的な時間を記載していたことも学生たちの自学につながったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また座学の応用栄養学の実習科目でもある。このことから、受講動機の「必修科目である」が95%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、約77%の学生が予習・復習をしてきていた。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は60%であった。シラバスを参考にした学生の68%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、この割合は昨年度よりも少しあがった。今後も実習初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の実習の進め方、課題提出や自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定であるが、学生の傾向を捉えながらシラバスをもっと活用していくように促す必要がある。予習復習等自己学習に関しても、課題以外の学習をも取り組むことが出来るように、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。 課題のためにインターネットを使用したりなど多く(54%)の学生が情報検索の工夫を行っており、その点でも学習意欲の高さがうかがえた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、座学の応用栄養学の実習科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからも実習時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、他者とのコミュニケーション力や個人や集団における教育力が求められる科目であることを周知し、発表等における内容の良し悪しよりも積極性を重んじることを伝え、意欲的な参加を促すよう配慮した。 ②受講動機において、「必修科目である」が100%あったのに対し、「関心のある内容である」は12%であった。関心をもって本実習を履修する学生の割合はまだまだ少ないが、着任時はわずか4%であったことと比べるとやや改善傾向は認められた。 ③初回授業時に、前に出て発言する機会を設けた。大学入学以来、前に出ての発言や挙手による発表の機会は少なかったとのことで、人前で話をすることに苦手意識を持っている学生が多いことが分かった。そこで、毎回の実習の中で、学生が発言できる機会をより多く取り入れるよう配慮した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の内訳は、Aは5人(14.3%)、Bは15人(42.9%)、Cは12人(34.3%)、Dは3人(8.6%)、Eは0人(0.0%)であり、全体の57.1%が80点を超える理想的レベルに達し、残りの42.9%も標準的レベルには到達した。 栄養教育のためのリーフレット作成では、多くの学生が要点をとらえ、工夫を凝らした良いものを作成した。特定保健指導の初回面談試験においては、自信をもって指導を展開できた学生がいた一方で、シナリオを読むことに留まった学生もみられた。人前での発表を苦手としていた学生が堂々と発表できたことはクラス全体にとっても非常に効果的であった。グループによる集団指導試験では、班員と協力して20分間の指導略案や学習教材を作成し、クラスの前で発表を行った。発表後に作成した改善案の内容から、各ライフステージにおける教育手法の理解が深まったと判断した。 講義で得た知識を用いて思考・判断する過程はほぼ全ての学生が達成していたように見受けられたが、意欲的に挙手をして発表をしたり、明るい表情やジェスチャーを交えながら余裕を持って話をしたりする態度は全員が習得する段階までには至らなかったことから、知識理解及び思考判断は「達成された」、その他は「やや達成された」と判断した。人前での発言を苦手とする学生のフォローにまで至らなかったため、次年度の課題としたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、必修である。臨地実習では、小学校や事業所、行政、病院いずれの実習においても、媒体の作成や個人あるいは集団指導の実施を求められることが多いことから、その基礎・基本を習得する上で非常に重要な科目である。そこで、毎回の実習の中で、学生自身が発言する機会を多く取り入れたところ、積極的な発言によりクラスを先導する学生がみられるようになり、全体としても初回時とは明らかに異なる上達が見受けられた。また、学生の発表内容から、様々なライフステージにおける教育手法の理解も進んだと判断できたことから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DP到達度自己評価における平均値は全ての項目において4.0～4.7であり、否定的回答は少数であった。特に「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目の平均値は4.7と高く、講義科目では身に付けることが難しい目標において学生が達成感を感じていたことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本年度も昨年度同様、「グループ討議→リーフレット作成→個人指導→集団指導」の順番で実習を展開した。これにより、まずは個人指導によって、導の流れの組み立て方や対象者に受け入れられやすい教育方法について学んだ上で、集団教育の実践へとつなげることができた。個人指導では、作成したシナリオをただ読んでしまう学生や媒体の活用が不十分な学生もみられたが、集団指導では質の高い媒体を作成し、対象者に向けた語りかけができるようになった学生が多かった。このことから次年度以降もこの順番がよいと判断した。 学生の自由記述内容としては、「この講義を通して前に出て発表するのが少し緊張しなくなった」や「発表が盛り込まれていて有意義だった」、「この経験を実習に生かしたい」等の前向きな意見がみられた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の就職後の活躍も踏まえ、栄養教育の手法を習得するという観点から、コミュニケーション能力や媒体作成の技術の習得については概ね達成できたが、学生の意欲や積極的態度、表現の習得度に個人差が大きかったことは課題である。これについては、もっと学生全員に意識を向け、「関心が持てない」、「発表形式の実習は苦手だ」と感じている学生に寄り添い、早めに対応することが重要であると考えている。来年度はさらに多くの発言の機会を設け、積極的参加を促すことで実習の意義を感じてもらい、全員が自分の発言内容に自信が持てるよう配慮していきたい。 また、「栄養教育論」の講義を通して基本的な理論に興味・関心が持てなければ、その理論を活用する本実習科目に興味を持てる可能性は少ないと考える。そのために、講義での理解定着を徹底させ、実習につなげていく意識を持たせたいと考えている。 以上から、余裕のある実習計画とすること、課題を感じている学生にいち早く対応すること、講義との連携を意識させること、学生の発信力向上を目指すことに留意していきたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	永田 純美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習Ⅱ	3	前期	選択	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目であるが栄養士・管理栄養士必修科目であるため、「必修科目である」が89%、「資格取得に必要である」が48%占めている。 ②給食経営管理実習Ⅰから続く実習であり、Ⅰでは与えられた基礎献立を調理していくが、Ⅱでは班で考えた学生献立を調理していくことになる。そのため、自主性や、他社と協働して給食の計画から実施、評価までを行っていく意欲が求められる。 ③臨地実習Ⅰに臨むための学内で行う実践的な実習であるため、社会性や礼儀と言った指導にも重点をおいている。 ④研究発表では給食の現状や課題について体験的・経験的な調査を行い、分析してプレゼンをする。これまでに修得した知識を活かし、論理的なプレゼンができるようになることを目指す。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価においては平均値が4.4～4.7点、中央値が5.0点となり、教育目標は達成されたと考えられる。 定期試験を課していないため、個人提出課題、班提出課題、実習態度で評価を行った。評価の平均点は81.4±9.4点となり、かなり高い理解度が得られたと考えられる。大半の学生が積極的に取り組み、研究発表では学外でインタビューやアンケートを行うなど、高い学習意欲が見られた。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門教養科目」「専門分野」であり、栄養士・管理栄養士資格取得のための必修科目である。受講動機においては「必修科目である」が89%、「資格取得に必要である」が48%であること、到達度自己評価の専門分野に関する項目については平均値4.4～4.7点、中央値5.0点であることから専門的な知識・技術の修得ができていると思われるため、内容的に妥当であると考えられる。 ② D P, 行動目標からみでの内容的妥当性 到達度自己評価は平均値が4.4～4.7点、中央値が5.0点、授業の質評価は平均値が4.5～4.7点、中央値5.0点であることから教育目標は達成されていると思われるため、内容的に妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価がおおむね良好であるため、授業の進め方に大きな問題はないと考えられる。学習量の評価で、授業の記録は「主に配布資料をに記録した」学生が96.3%であることから配布資料を有効に活用できたと思われる。授業に参加するための準備・復習に関しては、70%以上の学生が1回以上と答えているため、前向きに授業に取り組む意欲が見られる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括的評価としてはおおむね良好であったと考えられる。到達度自己評価、授業の質評価においては高い評価を得ることができ、学生の実習に対しての積極的な取り組みが見れたことから充実した内容であったと思う。3年生前期は、他の科目の課題も多く、学生によって学習意欲に差が出てくる。特に、実践的な実習には取り組むことができて、専門的思考が問われる演習や課題になるとついていけなくなる学生が一部いる。本科目は班活動が多い実習であるため、班内での知識理解に差が生じると作業量にも差が生じてしまうことがあり、そのような学生間での差を埋めることが今後の課題でもある。 また、臨地実習Ⅰ直前の実践的な実習であるため、今後も技術的な指導はもちろん、社会性を身につけることができる指導を心がけたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	永田 純美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
総合演習Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	3年後期・臨地実習Ⅰの事前指導を実施するための科目である。履修動機としては「必修科目である」が91%を占め、「資格取得に必要」が30%を占める。管理栄養士・栄養士資格必修選択科目であるため、前述のような結果となった。臨地実習に向けての一般常識から特定給食施設に関する専門的知識の復習と栄養教育媒体の作成と実施という広範な内容を盛り込んだ科目であることから、初回のオリエンテーションにて全体の計画を詳細に説明するようにしている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目では、DP1(知識理解)を定期試験から評価した。DP3(意欲関心)、DP4(態度)、演習への出席、実習ノートの内容、栄養教育指導案および発表から評価した。成績評価は、総得点の平均が67.4点(±9.6)であり、「秀」が1名/35名(2.9%)、「優」が3名(8.6%)が理想的レベルを達成しており、「良」が11名(31.4%)、「可」が20名(57.1%)が標準的レベルであった。授業評価の「到達度自己評価」を見ると、「判断力」「課題検討」「意欲」「技術習得」「コミュニケーション力」等で大多数の学生が『そうだと思う』と回答しており、自己評価は4.3～4.4と例年よりも高かった。また、「学習量の評価」では、64%の者が予習・復習に取り組んでおり、昨年度よりも若干増加していた。自由記述には勉強になったとの意見もあった。以上の結果より、本科目の受講により、専門分野に関しての理解や学習意欲は高まったと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、3年後期より開講されている臨地実習Ⅰの準備科目である。特に臨地実習Ⅰは、最初の学外実習となり、社会規範や礼儀作法から指導を行わなければならない。そのため、専門科目の位置付けでありながら、専門知識の指導のみに重点を置くことができないという矛盾を抱える。しかしながら、カリキュラム上では、専門科目の修得が臨地実習Ⅰの事前指導に合致した状況が整っているため、給食施設における栄養管理の基本知識として不可欠なライフステージ栄養学を並行して習得できたことは、本科目の指導上でも大きな効果を得ていると考える。臨地実習Ⅰの事前指導科目としての位置づけでは、内容的妥当性は高いと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」では、4.5～4.6ポイント、中央値5.0と高い評価であった。これらの評価から本年度の講義の実施方法は、特に問題がなかったと考える。 「学習量の評価」では、授業の予習・復習を行った学生は65.2%であった。授業の課題以外の学習については、47.8%の学生が取り組んでいた。半数近い学生が授業に対して積極的な姿勢がみられることから、学生の授業および臨地実習Ⅰに対する意欲に少なからずもつなげることができたと思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、学内で得た給食経営管理に関する知識と技術を学外実習(臨地実習Ⅰ)で実践可能とするための事前指導期間に位置付けられている。事前学習ノートによる知識の振り返りの必要性について指導したため、実習前の予習項目が明確になったと考える。また、社会規範に関しては、電話対応や挨拶、実習先での振る舞い等、必要最低限の指導は行えたと考える。達成度自己評価において、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたことから、講義演習内容等については問題はないものとする。

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
総合演習Ⅱ	4	前期	選択	いいえ	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、『公衆栄養』、『栄養教育』、『臨床栄養』および『応用栄養』の栄養学分野において、最新情報や重点事項を解説する。『公衆栄養』では、地域包括ケアや地域ケア会議の実際を知り、行政栄養士の業務を理解する。『栄養教育』では栄養教育を応用する際の検証を通し、さまざまな対象へ栄養教育を実施できる力を養う。『臨床栄養』については、さまざまな症例検討を行い、これまでに学んだ臨床栄養に関する専門的知識を統合して、適切な栄養管理ができる実践的能力を養うことを目的としている。また、『応用栄養』では、食事摂取基準や身体活動基準、授乳・離乳支援ガイド等の厚生労働省が通知するガイドラインを活用し、各ライフステージに対応した適切な栄養管理が出来る力を養うことを目的としている。 本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、学生の受講動機は『必須科目である：87%』、『資格取得に必要なものである：67%』と当然の理由であった。学修準備性について、例年4年次に開講される必須の授業科目が少ないこともあり、4年生だけは事前・事後学習の時間は十分確保されているものの、実際の事前事後学習の時間は十分とは言い難かったため、今年度の対面の講義では、資料の事前配付、講義後の確認テストの導入等、事前事後学習に対し強化することを試みた。今年度は、事前・事後学習(予習、復習)に取り組んだ学生の割合が58%と昨年度の39%より増加、一方で授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は約48.5%と昨年度より低下した。例年、予習復習をする学生としない学生を二分する結果が出ているため、次年度以降も事前事後学習の強化を継続する。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目では、DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)、DP4(態度)、DP5(技能・表現)までを定期試験と発表・レポートの合計点から評価した。本科目の平均値は50.3点であり、標準的レベル(60点以上とする)に至らなかった。レベル別にみると理想的レベル(80点以上)は2名(4.1%)、標準的レベル(60点～79点)が12名(25%)であった。不可は34名(71%)ととても多く、70%の学生は標準的レベルに至っていないかった。予習・復習を行っていたと回答した学生はいるが、その学習が学生の講義理解に結び付いたのかの確認はできていないため、今回の試験結果から考察すれば、学生の講義理解には直接結びついていない可能性が考えられた。次年度以降も、標準的レベルに達する学生の割合を増やすこと、さらには、理想的レベルに達する学生を増やすことを目標に、教授法の見直し、予習の実施、復習テストの導入等、次学年の学習意欲や習得レベルに合わせた対応が必要になると考える。 学生の到達度自己評価では、95%近い学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していたにもかかわらず、約96%もの学生が理想的レベルの知識と技術の修得、つまりは、実践的能力の獲得には至らなかった。自己評価と成績(結果)に乖離が見られてはいるが、この教科への学生の学びを深めたいという意欲は高いため(約90%)、次年度以降もその学年の学修レベルに合わせた教授法や講義進捗を考えながら、展開していくことが必要と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、臨地実習Ⅱ・Ⅲを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、95%近い学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答している。試験結果に関しては、標準的レベルを達成できた学生が少なかったが、学生の受講意識と自己評価が高いことを鑑みると、講義の内容的妥当性については問題ないものと考え、次年度以降も学生（学年）の理解、修得レベルに合わせた講義進捗と講義内容の検討を試みる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の自由記述にあった『問題に取り組む時間配分の改善』の件については、一部の講義はディスカッション形式で実施しているため、よい意見が出ている時間を大切にしている経緯はあるが、後半の問題にもしっかり取り組めるよう時間の制限を設ける等、次年度以降、改善に努めたい。 講義の出席状況や課題への取り組み方、学生の目標達成状況から判断して、内容的妥当性に問題はなかったと考えている。今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、臨地実習Ⅱ・Ⅲを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。学生の成績は普通レベルないしは標準より少し下であるが、達成度自己評価において、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたことから、講義内容等についての問題はないものとする。今後、より一層の学生の理解を深めるためには、学生の事前事後学習を促すための対策の継続が必要であると思われ、次年度以降も資料配布ならびに確認テストの継続、さらには第1回講義開始前のオリエンテーション時における事前事後学習の推進（今年度はシラバスに沿って授業計画を立てた学生（45%程度）と昨年度より上がったが、教員のオリエンテーションに沿って授業計画を立てた学生（21%程度）は低下した。）、学習法の具体例の提示等、事前事後学習に対し、さらに強化していきたいと考える。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
調理師論	1	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①この科目は調理師の業務を理解するための一端として、調理師が基本的に備えておかねばならない知識を、調理師試験に対応した学習を行うことによって習得することを目的とした。開講学年は1年前期であり、栄養士・管理栄養士の職域と調理師業務の位置づけと役割について解説した。 ②夏期集中講義のため、授業を4日間4コマ集中して行い、16回目に試験を行う。 ③専門科目を修得していない1年次開講科目であるため、入門的な内容とし、講義内容は調理師試験に準拠した。 ④15回の授業後、すぐに試験を実施するため、試験内容は初級レベルとした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の評価点は78.3±7.4点であった。80点以上が50％であり、70点以上が25％、60点以上が25％であった。 到達度自己評価の平均値と中央値は（1）目標の達成：4.3、4.5、（2）知識の確認修正：4.5、5.0、(3)事象を理解する考え方：4.3、4.5、(4)課題検討力：4.3.4.5、（5）的確な判断：4.3、5.0（6）学習意欲：4.3、4.5であった。 授業の質の評価の（1）提出などの評価基準は明らかであったでは、平均点4.5、中央値5.0、（2）学習の範囲や課題は明らかであったは、平均点4.0、中央値5.0、（3）説明は理解しやすいものであったでは平均点4.4、中央値5.0で平均並みであった。 1年前期の履修であり、夏期集中講義であるため、試験内容は初級レベルとした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や知識の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。もっと自発的に行動させるため、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業を組み込んでいきたい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	栄養士、管理栄養士のほかに、調理師資格取得希望者が数名いるため、授業内容は、栄養士として学ぶべき基本と調理師試験に準拠した学習内容とした。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	1年開講の夏期集中講義であるため、専門科目を受講していない1年生が、理解できるような内容にする必要がある。 また、15回の授業終了後、すぐに試験を実施するため、時間的な余裕がなく配慮が必要である。

学科	栄養学科
氏名	長藤 信哉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
薬事法規概論	1	前期	選択	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目の開講した目的は、「学生の就職に役立つ医薬品登録販売者資格取得を支援する」ことである。 ②医薬品登録販売者資格試験を受験しない学生にも、一般教養としてのセルフメディケーションの知識を高めてもらうために、身近な話題を取り入れた。 ③夏季集中講義のため、授業の途中で飽きないように、学生の興味を引く内容も取り入れるようにした。 ④昨年度に示した改善計画に基づき、資格試験対策の内容の講義だけでなく、自分で考えて発表を行う能動型の講義を心掛けた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				どちらともいえない
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の受講者の状況 昨年の受講者数34名に対して、今年度は44名の学生が受講した。夏期集中講習であり、受講者数の増加は、栄養学科の先生からの紹介だけでなく、医薬品登録販売者資格に対する意識、および、学習意欲が高いことが関係していると思われる。また、選択科目にも関わらず高学年生の受講も目立ち、この講座や医薬品登録販売者の認知度が上がった結果だと思われる。 ②評価結果 成績は、平均点が80点、秀8名、優16名、良12名、可7名、不可1名（不可は出席日数不足）であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門選択」となっており、さらに夏期集中講義にて実施されるため、学習意欲が高い学生が受講し良い成績を収めている。そのため、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 昨年度に示した改善計画に基づき、能動型の講義を心掛けたが、途中で台風接近により授業内容の変更を余儀なくされたため、学生参加のクイズ大会などがあまりできず、昨年同様の受動的な講義がメインとなってしまった。今後の授業の改善点として生かしていきたいと思う。 内容自体は、登録販売者国家試験に合格できるよう工夫を凝らした内容で講義を行い、評価アンケートでも概ね理解しやすいと評価をいただいており、内容については問題ないと考える。なお、技能表現の項目はPOPを直接回収して、フィードバックを行う予定であったが、台風接近によりオンライン上での採点となってしまう、フィードバックが不十分となってしまったのは否めないと思う。 ③まとめ 以上から、概ね内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の項目の評価が比較的低く、反省点の一つと考える。授業の前後で質問を受け付けていたが、問題演習の時間を作り、その間に教室を巡回することで、質問の機会をさらに増やしていく必要があると感じた。 ②今年度は、途中で台風接近のため、一部オンデマンド授業になったり、定期試験も1か月遅れで行われたりして、対面での質問の機会が少なくなってしまった影響も考えられる。オンデマンドでも質問の方法を提示し、質問しやすい環境の構築も必要だと感じた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①本科目の開講目的である、医薬品登録販売者受験のための知識養成、受験の動機づけ、一般教養としてのセルフメディケーションの基礎的知識の形成については、概ね達成できたが、質問の機会の不足などが課題として挙げられた。 ②次年度以降は、前年度からの課題の「学生から発表する能動的な講義」と、今年度の課題である「質問の機会を増やすこと」を改善していきたいと思う。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	木村 宏和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品機能特論	4	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は選択科目であるが、科目名やシラバスから何を学ぶかをイメージしやすい。しかし、受講動機を見ると、「単位数を確保する」が73%で一番多く、次に「関心のある内容である」が27%であり、関心があって受講しているとはあまり考えられない。そのような背景で、食品機能特論という最新の学問を教授することは、大変難しい。 ②講義の前に毎回確認テストを行い（計14回）、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ③講義の終わりに毎回講義の質問や感想を書かせて、次の講義の時にそれらをフィードバックした。 ④教科書を用いると講義レベルが高くなるので、講義内容を国家試験のレベルまで落として、独自の教材（パワーポイント）を作成し、わかりやすく講義をした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		どちらともいえない
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83(±6.5)点であり、再試験対象は0であった（履修放棄1名）。多くの学生が理想的なレベル（80点以上）であった。学習到達自己評価では、「自分の目標を達成した」の項目について、「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と回答した学生が約90%であったことから、全体を通して目標は達成されたと思われる。 知識理解に関しては、学習到達自己評価の「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の項目について、「わりにそう思う」または「かなりにそう思う」と回答した学生が約90%であったことから、目標は達成されたと思われる。 意欲関心については、学習到達自己評価の「学びを深めたいと意欲をもつことができた」の項目について、「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と回答した学生が約90%であったことから、目標は達成されたと思われる。 技能表現については、学習到達自己評価の「必要となる技術を身につけることができた」の項目に「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と回答した学生が約73%であったこと、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」の項目に「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と回答した学生が約45%であったことから、目標はどちらともいえないと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、卒業選択科目である。受講動機では「単位取得を確保する」が73%であった。「学習到達度の自己評価」についても、達成された結果が出た。 本科目は、食品学と医学に関連した「機能性」という食品の最新知識が必要な科目なので、食品学Ⅰ、食品学Ⅱ、加工食品機能論、食品衛生学、微生物学の次に配置されているのは妥当であるとする。従って、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性については、妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、食品学と医学に関連した「機能性」という食品の最新知識が必要な科目であるが、毎年「単位数の確保」を目的で受講する学生が多い。そのため、講義を平易なレベルに抑える必要があり、授業の進め方は大変難しい。そこで、「関心を持たせる」、「わかりやすく伝える」を第一に考えて講義をした。具体的には、講義内容を国家試験のレベルまで落として、独自の教材（パワーポイント）を作成し、視覚化による理解度向上に努めた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括的に評価すると、目標のDPを達成できたのではないかと考えている。しかし、講義内容が4年生でやるべき内容ではない。「単位数確保の目的」で受講する学生が多いことが原因である。今後の課題は講義内容を上げる（レベルを上げる）ことである。そのため、食品学分野の先生と連携しながら、食品機能性分野の大切さや面白さを低学年から説き、その分野に関心を持つ学生を増やしていきたい。しかし、本科目は2025年の前期開講で最後となる。

学科	栄養学科
氏名	渡邊 和美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	実務家教員として、長年病院に勤務した管理栄養士として臨床現場での経験を活かしながら授業を行った。医療・介護の分野で、個々人の栄養ケアプロセスをどのように学び、身に付けていくかは、臨床栄養管理の重要な課題である。そこで、チーム医療の一員として、栄養診断を的確に行うためにはどうすればよいのか、栄養診断で明らかになった問題を解決するためには、何を計画するべきなのか等の手順について、アクティブ・ラーニングを実施した。学生の受講動機は関心のある内容であるが100%であった。単位数を確保するため25%であった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82.8点（±12）であり、再試験対象者は0人であった。全員が標準的レベル（概ね80点以上として作成）に達した学生は7人中6人であった。受講者全員が教員が準備した患者症例の栄養スクリーニング・アセスメントから栄養管理計画書の作成まで取り組むとともに、パワーポイントを作成して、学生一人一人が発表することができた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であるが、管理栄養士国家試験を受験しない学生も1名受講したため、動機づけに苦慮する面があった。しかしこの課題に応えるように、課題については「いくつかの症例から各自が選択する」ように工夫したことで、一定の成績を収めている。このことから内容的には妥当である。 ②DP成績評価行動目標からみでの内容的妥当性からは妥当である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表する等の学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.3と高かった。患者症例を取り上げて、検討する機会を作り、じっくり考えてもらう時間を十分に取ることができた。予習復習時間も2時間程度使っていた。次年度も専門分野の課題や的確な判断に繋がるような授業を心掛けていきたい。学生の意見として、課題のパワポ作成が大変だとあった。しかしこの科目は、定期試験を実施せず、提出課題で評価すると初回オリエンテーション時に説明をしている。評価方法については今後も継続したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	臨床現場における栄養管理に必要な学びである本科目の位置づけから、患者症例をもとに栄養スクリーニング・アセスメントから栄養管理計画書の作成を行った。一連の臨床現場（医療・介護）においてチーム医療を推進するための管理栄養士の役割と専門性を再確認する授業は概ね達成できた。学生の意見を参考にして、次年度は成績評価についてははっきり説明を行いたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	北九州市の若い世代の食育推進事業に参画し、地域で行われているさまざまな公衆栄養活動に学生を参加させたり、若い世代の食生活形成に必要な栄養指導媒体を作成することにより管理栄養士の業務を体験させ、管理栄養士の役割を理解してもらうよう実践活動を計画した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生による授業評価においては、「学習到達度の自己評価」平均値は4.0～4.3であり、「授業の質評価」平均値は4.0～4.6ある。このことから、教育目標は達成できたと言える。次年度も体験型の実践活動を計画し、管理栄養士の役割を理解するよう計画していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「学習達成度の自己評価」の項目において否定的な意見はないことから、内容的には妥当であると考ええる。 ② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 実践活動で学習したことを復習したり、意欲的に若い世代の食生活に関する献立や料理動画を作成していたことから、活動内容は妥当であったと考える。 以上から、内容的妥当性は問題ないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「学習量の評価」について、全員で話し合いながら実践活動の課題や地域住民に対する栄養指導方法を工夫するなどの取り組みを行っており、自主的に調べ学習を行っていた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	実践活動は、大学での学びの集大成であり、学生自身が興味ある内容でゼミを選択し、より専門的な管理栄養士としての知識・技術を取得するための科目である。地域で行う実践活動について事前説明とアドバイスの方法について指導を行ったり、若い女性の食育推進事業では、課題抽出から栄養指導媒体さらに料理の動画を作成するなど、管理栄養士の役割が理解できていた。今後も管理栄養士が地域でどのような事業を行っているか、どのような職種と連携・協働しているかを体験することで、管理栄養士の役割を理解、管理栄養士を目指すよう充実した内容を計画していきたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	渡邊 和美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	子ども・地域食堂は「孤食の防止や安心して過ごすことのできる居場所」としての役割を担っている。将来の管理栄養士・栄養士として社会に出て働く前にその居場所づくりに関わることは重要である。飽食の時代と言われる一方で、今日の晩御飯にも事欠く貧困者が多数いることも日本社会の現実だからである。そこで、食事の尊さや共食の意味を研究ゼミではディスカッションしている。また、善意で届いた食材を利用して学生は臨機応変に、その時の入手に応じて調理の補助に回り、食事提供側のサポートを行っている。また食後のタイミングでパワーポイントを使って健康教室や栄養講話約20分を実施できた。食の大切さを再認識できる指導内容となるように重点を置いた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生は、フードバンクから届いた食材を調理し、盛り付け配食する。利用者の食後のタイミングで食育講話を実施できた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生は、フードバンクから届いた食材を調理し、盛り付け配食する。利用者の食後のタイミングで食育の実践活動が行えたことから、学習到達度の自己評価はおおむね達成できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	地域子ども食堂が、どのような社会的背景から運営されているのかについての知識や理解は深まったように考えるが、把握した知識は不十分である。そこで、「やや達成できた」とした。また思考判断については、教員引率のもと、指導・助言を受けながらの食育や栄養講話であったので、十分ではないため、「やや達成された」とした。意欲関心については、実践活動が短期間であるため十分な意欲関心にまでの到達できなかったため、「やや達成された」と評価した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況の総括的評価は全体を通じて「やや達成できた」とした。今後の課題は平日は授業があるため活動に制限がある。また土曜日にも様々な学校行事もあり、定期的な食育活動の計画ができない事が課題となる。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①実践活動(ゼミ)は、選択科目であり、学生が興味のあるテーマを選択することが多い。今年度のゼミ生は4名のみであり、授業評価アンケートの回答は得てないが、受講動機は「関心のある内容である。」であることが考えられる。本ゼミは、単位数確保だけを動機で履修してしまうと、活動していく中でゼミ活動への意欲が失せる可能性があり、結果としてゼミ全体のモチベーションの維持が難しくなったため、ゼミを履修前の説明時（面談時）に、より詳しい説明を行い、意志の確認をした、今後もそうしていく。またゼミでは、ゼミ活動以外に相談や国家試験対策等のサポートを行ってきた。今後も学生たちの大学生活でのサポートを継続していく。 ②ゼミでは、福祉学科・看護学科が実施しているほほえみprojectで、福祉や看護の学生たちと協力して、小児科病棟に入院している乳児期から学童期までの子ども達に安全で安心して遊べる玩具の作製をし、届けた（3学科協働であるため本ゼミは学科横断の科目とする）。学生たちはこのほほえみprojectの活動を行っていくなかで、自然とチームで活動することの大切さを（3学科協働の精神）身につけることが出来ていた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①DP1(知識理解)、DP2（思考判断）、DP3（関心意欲）、DP4（態度）、DP5（技能表現）すべてにおいてゼミの活動や発表によって評価した。しかし本ゼミは、4年後期まで活動が続くので（3学科協働のため、後期までの活動の実施については、学生も了承の上である。）、現段階ではDP評価をどちらともいえないと記載する。 ②ゼミ活動においてはシラバスの計画通りにはいかないため後期スタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。よってシラバスを参考にはしていないという回答は、やむを得ない。課題学習や自己学習のために図書館の利用であるが、今後は学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、3年後期-4年次の選択科目である。本科目履修者の学習到達度から、選択教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	上記4にも記載したが、ゼミ活動においてはシラバス計画通りにはいかないため、3年生後期のゼミのスタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。課題学習や自己学習のための図書館やインターネットの利用については、今後も学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。図書館ガイダンスの実施も検討している。また、今年度から学校給食応援団のメンバーとして学校給食の献立作りに関わっている。北九州市の伝統的な食文化である「ぬかだき」のぬかみそを使用した献立の提供を3つの研究室と協働で行っている。2024年度ー2025年度は、ゼミ活動以外にも可能な限りゼミ生と接する機会を増やし、実践活動（ゼミ活動）、国家試験勉強、就職活動など様々な点で学生のサポートをしていきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは3年後期から4年前期の選択科目であり、学生が自ら希望するテーマ（教員）を選択していく。選択科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからも学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、ゼミ（授業）改善を行っていく。

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「実践活動」は「卒業研究」とは異なり、一つのテーマについて深く探求するという視点よりも、卒業後に活かせる幅広い知識を習得させることに重点を置いた。 ②例年は最初に行う活動である文献検索の手法についての説明だが、今年度は他の活動との関係で、活動開始2か月後に実施した。文献検索自体になじみのない学生が多かった為、検索の仕方やまとめ方を例示し、丁寧な説明を心がけた。 ③地域貢献活動の一環として実施した未就学児及び児童を対象とした食育では、大型の教材やオリジナルの媒体を作成し、対象者に合わせた教育を実践する機会を設けた。また、一般住民の方を対象とした食事診断を実施し、これまで学んだ知識を統合して、栄養指導を行う場を設けた。さらに、病院設置のタニタ食堂におけるメニューの試食及び病院の仕事内容について管理栄養士の先生から説明を受ける機会を設け、栄養教育的視点からどのような働きかけができるかについて熟考する場も設けた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	文献検索の手法，選択した文献についてのまとめ方等の知識を活用し，オープンキャンパスや一般の方向けイベントにおける食事診断，子ども向け食育に用いる媒体の作成等の活動状況から判断して，「知識理解」，「思考判断」，「意欲関心」，「態度」，「技能表現」全ての項目において目標は達成されたと判断した。 特に「意欲関心」については，体調や実習との重複等の特別な理由を除き，どんな活動にも率先して参加し，意欲的に活動したことは大変評価できる。行政やイベント主催企業等が関わった活動においては，多くの賞賛の言葉をいただいたことから，全体を通して目標が達成されたと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中に位置づけられているが、必修科目ではなく、選択科目である。そのため、学生自身の興味関心に基づいて選択される。本年の本実践活動に所属した学生8名中3名が「栄養教諭免許」の取得を希望、5名が管理栄養士としての病院や福祉施設、委託業者への就職を希望しており、実践的な力を養成する必要があると考えた。そこで、未就学児や学童を対象とした食育や、一般住民の方を対象とした食事診断及び栄養指導の経験を通して、ライフステージに応じた指導の重要点を実感してもらった。以上のように充実した実践活動を実施できたことから、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 今年度はアンケートによる「学習到達度の自己評価」をみることはできなかったが、「大変勉強になった」「今後に活かしたい」との声が多数聞かれたことから、内容的には妥当であったとする。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	3年生後期に文献検索等に関する講義や演習、学内外での実践活動を実施した後、2月～6月の時期は臨地実習や栄養教諭教育実習が重なり、さらに7～8月には教職の採用試験や委託系企業の就職活動等の為に、全体的な活動ができず、個人的な調べ学習や媒体作成が中心となる時期があった。このような時期にも、メール連絡等を通してゼミ活動を意識できるように工夫した。長期休暇中のオープンキャンパスや調査にも積極的に参加してくれたことから関心の高さを感じ取れた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「栄養教育手法の実践」という観点から、高い意欲と関心を持ち、これまでに学んだ知識を活用して実践するという点については概ね達成できたと考える。 活動の後半である4年生前期の時期は、臨地実習や教育実習、国試対策の講義に加え、就職活動も重なり、全員が揃って集中して活動に取り組むことが難しい時期である。だからこそ、連絡や調整、報告の仕組みを明確にし、学生が常に目的意識をもって活動に取り組めるように配慮することが必要である。その対策として、活動の始めに年間計画を学生に周知することとする。また、評価の基準についても明示するよう心がける。

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年間大学で学んできたことを活かしてもらうため、考える、提案する、改善するといったことを重点に考えて活動を行った。ゼミ活動として、まずは、対象とした食品である「ササゲ豆」についての学習を行った。その後、ゼミ活動の目的として「ササゲ豆粉を利用したパンの特性の検討」とし、食パンの製作ならびに物性の測定を実施した。実践活動の受講動機では、「必修科目である」が63%について「関心のある内容である」が50%であった。受講学生は興味関心がある教員の実践活動を履修しているため、学生に主体となって、積極的に活動を行えるよう計画した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	◎授業アンケート 到達度自己評価の「職業選択の参考になった」以外の項目において4.0以上の数値であった。また、「事象を理解する視点、考え方を得ることができた」平均値：4.3、「課題を検討する力」平均値：4.0、「学びを深めたいと意欲をもつ」平均値：4.1、「コミュニケーションや表現する力を高められた」平均値4.1と、実践活動の大きな目的である「考える、提案する、改善する」という学びは達成できたと評価した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① DP/CP カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は4年間で学び修得した、知識、技術、思考力、態度などを活かした活動であるため、内容的には妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	これまでのゼミ活動で得たレシピを土台として、ササゲ豆粉の配合割合、調味料の分量、調理の仕方に関して、試作検討を繰り返し行った。学生たち自ら問題点を発見し、それを改善する方法などを調べ実践することで、様々な力が身についたと感じた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度は、自ら積極的に取り組む力、計画する力などが修得できたと感じた。次年度は、学生が達成感を得る目標を設定した、活動内容を公表するような場を設定して活動を行いたいと考えている。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1.専門基礎科目及び専門科目で学んだ中で、関心を持った領域から担当教員との話し合いで、実践活動のテーマを設定する。 運動の知識が非常に不足しているため、運動生理学の授業への参加をしてもらいながら、基礎知識を深めてテーマの理解と研究過程を決定する過程を設けた。 2.選択したテーマについての調査・研究を実施し、テーマに関する知識、理解を深めた。 このことに関して、報告書作成を目標に、関連論文を読み合い、テーマの理解、方法の理解、結果のまとめ方、結果の分析方向、を理解させるように進め、実際に自分で全ての過程を各人で作成させ、その後に全員の報告をまとめ改善し報告書を作成した。 参加の積極性、理解、行動力、まとめにおける精度を評価した。参加者は優以上の評価を受ける結果となった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して、完成度は高いとは言えないが、演習中に理解の深まりが見られた。意欲的な参加態度が見られ、測定、結果の分析、まとめについて思考や判断の場面でも積極的に取り組んでいた。徐々に是認の意欲が感じられるようになり、自ら進んで次の展開を考案する積極的な態度が現れた。限定した技術ではあるが、技量の向上は数回で見られるようになり、全体の向上はやや達成できていると言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	運動選手などのコンディショニングでは、栄養の効果だけではなく、それに密接に関わる運動とその処方が重要である。運動栄養に興味を持つ学生に対し、運動の処方を似合わせた栄養摂取プランの作成方法を理解しておくこと、は重要である。一般論でなく、人の目標、トレーニングの段階や強度に適合したものでなければならない。そのため、体力測定、栄養状態の測定、事例の検討は必要資質と考える。 受講動機は、部活動者が多く、スポーツ栄養に興味を持っている者たちであった。学生の自己評価では情報が少なく、あまり学習していないようであるが、測定や結果のまとめや、結果の評価コメントでは何度も質疑を行い、積極的に変わっていた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	研究課題が自分で考案したテーマ、実際の測定とその結果の意味への興味、レポートを完成し、公表できたことの自信がこの科目の重要な教育的達成目標である。本授業は最終段階まで進むことで、大学卒業の意義を見つける科目である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	研究課題が自分で考案したテーマに近づける努力が重要である。また、実際の測定で体を動かして成果を得ることも重要で、必要な要素である。また、その結果の意味への興味を促すような議論も重要である。パフォーマンスとして、レポートを完成し公表することで、達成感からの自信を持てるように進めることが重要で、この科目は大学で何を研究したかの重要な科目で、大学卒業の意義を見つける科目である。 達成度は、興味という心理的な要因位かかっているので、最初の導入をさらに充実させようと考えている。

学科	栄養学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生学	2	前期	必修	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①公衆衛生学は必修科目であり、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、知識理解と思考判断が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」17%で、「関心のある内容である」6%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増やした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は73.1（±9.3）点であり、不合格者は3名であった。標準的レベル（概ね70点以上として試験を作成）に達したが、成績の差は大きかった。 ②昨年度と比べると、本試験の平均点は少し上昇した。次年度は成績を理想的レベル（平均点80点）まで上げる工夫が必要である。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は97%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も97%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったので、今後を課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、意欲関心、態度に関しやや達成された。しかしながら、理想的レベルまでは達していなかった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.8で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.4であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.7で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.6であった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。 学生から特に意見がありませんでしたので、次年度から授業内容を改善して行きたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲の面では課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指して行きたい。 授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。 講義スライド、配布物（授業の参考資料）、わかりやすさに関しては、工夫して改善し、来年度にむけて準備したい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人体の構造と機能基礎実習	1	前期	必修	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①人体の構造と機能に関する基礎的な理解を得るため、栄養学の分野で頻出する化学物質の構造、消化・吸収の仕組みと、ホルモンによる腎機能調節に焦点を当て、性硬く及び生理学の手法を用いた実習を行った。 ②正常な生命活動の仕組みについての基礎的理解を深めるため、生命維持に不可欠な諸器官の構造と機能について、身体活動などと組み合わせて可能な限り身近な題材を用いて実習を行うようにした。 ③実習レポートは実習終了後一週間以内に提出をさせ、提出後1週間以内にコメントを付して返却した。実習内容を忘れないうちにまとめることと、早い段階でのレポート返却により、学生がコメントを確認することで復習の機会が自然とできることを意図した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	到達度自己評価にて「職業選択の参考になった」について「少しそうでないと思う」以下の回答が18%あったが、そのほかの項目に関して「まあまあそうだと思う」という肯定的な意見が90%以上を占めている。 加えて、レポートは総じて大変良くできており、積極的に取り組んだ跡がうかがえた。 図書館等の利用が非常に少ないが、実習時間中にスマートフォンなどを用いてインターネットを利用した情報検索を許可しているため、このような結果になったと思われる。 以上のことから、この科目で意図した教育目標はほぼ達成できたと考えられ、授業態度、レポート提出状況からも、この科目に多くの学生が主体的にかかわったことがうかがわれる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「専門基礎分野」になり、選択科目である。実習で行った内容は講義で学習したメカニズムを実際の自分たちの体で体験するという知識定着の役割も担っている。そのため、管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。また、学生の成績も非常に良かったことから内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容妥当性 「到達度自己評価」及び、実習の成績からみても学生は進んで熱心に取り組んでいたと評価したことから、目標をほぼ達成でき、内容は妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においてすべての項目において「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な回答が90%以上を占めているので、概ね学生が肯定的な判断を下しており問題はなかったと判断でき、知識の定着ができたと考えている。 図書館にて本で調べることがほとんどできていないことについてもは、実習中にインターネットを活用して調べることを行っているので、大きな問題はなと考えている。まずは教科書を読むことを習慣づけることから注意を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。 この科目は①糖質、アミノ酸、脂肪酸の基本構造・定義を説明し、分子模型を組み立てることができ、栄養素の消化について説明できること、②人体を構成する主な骨と筋肉の名称を覚えること、③泌尿器、血液、循環器、呼吸器、感覚器などの実習を通して、生命体を構成するそれぞれの臓器の基本的な構造、働きについて説明できるようになること、④実験結果のまとめ、グラフ化、考察事項についての調査を通して、科学レポートの書き方を身につけることを目標に行ってきた。最終的な到達目標は、①～④を初学者に説明できるようになるという点に置いた。学生による授業評価とレポートの採点結果から見て、これらの到達目標は、ほぼ達成されたものと判断できる。 今後の課題としては、インターネットを用いて調べる際に、正しい情報を選び取る力を身につけてもらえるような工夫をしていきたいと考えている。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①基礎栄養学Ⅱはこれまで選択科目であったが、2023年度入学生より必修科目となった。この科目は基礎栄養学Ⅰに続いて基礎栄養学の後半を講義する科目であるが、「資格取得に必要」あるいは「関心のある内容」と答えるものが例年少ない(今年もそれぞれ25%と12%)。管理栄養士の資格の取得に必須であり、栄養学の基礎的知識が管理栄養士の実践の場でも重要であることを、出来るだけ具体例を挙げて強調しているが、なかなか浸透しない。化学や生物などの理系科目を苦手とする学生が多い点、また、管理栄養士の資格取得を目指す学生が増えている点も関係しているのかもしれない。②最初の授業で学習準備のためのオリエンテーションを行ない、授業スケジュール表を配付した。③授業で使用するスライド資料は、毎年、一部を改訂し、よりわかりやすい内容になるように努めている。また、予習に役に立つように、なるだけ講義予定日より早く講義資料を配付している。④授業はすべて対面で実施したが、これまでのアンケートの自由記述にみられた「もう少し伝わるように話す」、「専門用語が多い」、「早口で聞き取れない」などの要望・苦情は、昨年度に続き今年度もみられなかった。基礎栄養学は講義内容が多いので、時間内で終わるためにどうしても一方的な早口の授業になりがちであるが、今年度も授業内容がある程度基本的な内容にしばって講義したのがよかったのかもしれない。⑤授業内容を予習・復習するための練習問題および、分野別に分類した国試過去問約5年分とその解説をなるべく早期に配付し、予習復習の助けとなるようにした。また、時間がある時には、その日の授業内容に関する練習問題を学生に答えさせるようにした。学生の要望にあった穴埋め式の練習問題の解答は、講義の最終回に配付した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	今年度も、2年生の学生数が少なかったため(履修登録学生数39名・聴講生1名)ークラスで講義を実施した。今年度の期末試験成績の平均点(100点満点)は72.8点(±10.5)であった。問題が同じではないので単純には比較できないが、昨年度(80.6±8.5) に比べるとやや成績が下がったが、それ以前の成績とはほぼ同じレベルであった(2022年度70.0±15.0、2021年度74.5±12.8)。今年度の成績の内訳は、A(90点以上)3名(7.9%)、B(80～89点)8名(21.1%)、C(70点～79点)11名(28.9%)、D(60～69点)13名(34.2%)、E(59点未満；本試験不合格)3名(7.9%)、受験資格なしが1名であった。本試験不合格者3名のうち2名は再試験で合格したが、1名は再試を受験しなかった。昨年度に比べると今年度は成績が悪かったが、一昨年以前の成績とはほぼ同じレベルの成績であった。授業評価アンケートの今年度の「到達度自己評価」では、各評価項目の平均値の範囲は3.5～4.0で、昨年度（3.1～3.7）と比べると試験の成績とは逆に、高評価であった。また、到達度自己評価の全項目で「①全くそうでないと思う」と回答した学生がいなかった(昨年は2～4名、例年0～1名)ことは、講義の目標をある程度達成できたのではないかとと思われる。この科目のDP1として挙げている"知識・理解"に関連する項目(到達度自己評価項目(2)「知識の確認、修正と新知識の獲得」と項目(3)「事象を理解する視点や考え方」)、及びDP2として挙げている"思考・判断"に関連する項目（項目(4)「専門分野のさまざまな課題を検討する力」と項目(5)「専門分野において的確に判断する力」）については、今年度の評価の平均値が3.8～4.0の範囲で、他の評価項目と比べると比較的高い評価であった（昨年度の同一項目の平均値は3.6～3.7）。以上の結果より、期末試験の成績と到達度自己評価の結果が乖離していることから判定は難しいが、本科目のDPに関する項目の平均値が上がったことより「やや達成された」と判定した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目（基礎栄養学Ⅱ）は基礎栄養学Ⅰと連続した「専門教育科目・専門基礎分野」の必修科目である。基礎栄養学ⅠおよびⅡの内容は、国家試験に多く出題される分野であり、また、栄養に関する実践的な分野の基礎となる科目なのでその重要性は学生にしっかり伝えている。学生の自覚がまだ十分とは言えないが、「期末試験成績」がほぼ良好であることから、内容的には妥当であると考える。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 本科目のDPである"知識・理解"(DP1)および"思考・判断"(DP2)に関連する"到達度自己評価"が、昨年度に比べて高い評価であったことから内容的には妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度（2024年度）の講義はすべて対面で実施したが、「授業の質評価」の各項目の平均点は3.6～4.0の範囲にあり、同じく対面で実施した2023年度の評価（3.1～3.7）に比べると高い評価であった。特に、項目(2)期間内に行うべき学習の範囲や課題（4.0）、項目(3)説明の理解しやすさ(3.9)、項目(1)評価基準(3.8)、(5)質問の機会（3.8）の評価点が比較的高かった。 講義を出来るだけ基本的な内容に絞り説明を分かりやすくした点、授業の最後にその日の講義のまとめとして練習問題を学生に答えさせる時間を設けた点などが高評価につながったと思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	昨年度(2023年度)の授業評価では、以前に比べて低評価であったが、今年度は以前のレベルもしくはそれ以上に高評価であった。何が原因がよくわからない面も多いが、基礎栄養学の授業内容をなるべく重要なものに絞った点、授業の終わりにその日の内容に関する問題を学生に口頭で答えさせた点などが高評価につながったのかもしれない。栄養学科の学生の多くは、“生物”や“化学”のような“理系”科目を苦手とする傾向があるので、難しいことをなるべく明解に、さらに興味を持てるように工夫していきたい。

学科	栄養学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。 ②全体を、教職の歴史的変遷、法制度などの基礎的知識理解を深める部分と、教職をめぐるさまざまな具体的事例の考察の大きく二つに分けて、授業を組み立てた。 ③後半の教職をめぐるさまざまな事例の考察は、昨今強調されている「チーム学校」という考え方を受けて、学校教育を支える多様な機能に焦点をあてて構成した。スクールソーシャルワーカー、不登校対応専任教員、夜間中学教員、院内学級担任、部活指導員などの実践例を映像を通して、教職の幅の広さ、奥の深さの認識を深めた。 ④学生同士の意見交換を大事にしたいとグループワークを積極的に取り入れた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①評価は、2度の小テスト、長短の数度のレポート提出の合計点で行った。前半の教師の服務についてなどの理解は、筆記試験で確認する必要があり、今年度より小テストを実施し、理解の定着を図った。 ②90点以上2名、80点以上90点未満3名、70点以上80点未満2名、60点以上70点未満1名、60点未満2名であった。学生の間で差がみられる。 ③「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題についての調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的よくできていたと評価できる。しかし、調べ学習をもとに自らの課題としての認識を深めるまでにはまだ十分ではない。2年生ということもあり、まだまだ進路についての自覚や目的意識が明確になっていないからと考えられる。 ④グループワークを積極的に取り入れたことで成果もあったが、人数が多いこと、学生が慣れていないこともあって活動しているだけというグループがあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、教職課程の科目であり、ほとどの大学でも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的妥当性については問題ない考える。 ②DPについて 教職課程独自のDPでないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①毎回のことながら、授業中に行った発言に対して批判的な意見があり、それについては真摯に受け止めたいと思う。しかしながら、明らかな誤解、憶測、思い込みによる批判については、納得はしていない。 ②本時だけに限らないが、受講者が一桁しかない授業評価において、アンケートに示される評価の数字にどれだけ意味があるのか疑問である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①1年後期に開講される「教育原理」が教育学への入門的科目であるので、本科目が職業としての教職に関する専門科目としては最初のものである。ガイダンス的な科目として、幅広く学校教師の仕事についての理解を深めようと考えたが、次年度からは、自らの課題とすることが出来るようにグループワークを取り入れるなど授業構成と方法を改善したい。 ③学生の関心が高いスクールソーシャルワーカーを外部講師として招きたいと考えていたが、実現できなかった。再度検討してみたい。

学科	栄養学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	多様性と人権文化の花咲く平和な社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。（客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる）授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	情報洪水ともいえる現代、そしてスマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておき、時あるごとに呼びかけたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○2023年度 全体平均81.5、栄養学科平均69.2、秀16.7%、優33.3%、良16.7%、可0.0%、不可16.7%、標準偏差20.09 ○2024年度 全体平均78.2、栄養学科平均76.1、秀22.2%、優11.1%、良55.6%、可11.1%、不可0.0%、標準偏差10.2 ○前年度に比べ、全体平均にかなり近づいた。一方で秀と優が15ポイント以上減少し、良と可が増加した。不可はいなかった。栄養学科全体のばらつきは減った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○授業の進め方としては(1)道德とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道德教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道德の授業を組み立てる、というものであった。 (3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。 ○本年度は実際の学校現場で用いられている各種資料の参照、理解度を深めるための課題等について多様な形式を工夫した。 ○指導案作りに関しては、いくつかの段階を踏んで作成できるよう課題作成・提出を組み合わせた。 ○今年度は道德教育の評価に関する学習を強化した。 ○実際の授業記録動画の視聴を課題とし、その上で授業中に動画を再生・解説するなど、実際の授業の雰囲気や教師の具体的指導方法の習得に務めた。 ○今年度の福祉学科には、授業実践記録で分析した具体的レベルの教材研究やテーマとの関連付けに関して、自分独自の工夫を凝らすという部分が十分ではなかった受講生が目立った。授業内で演習的な取り組みを複数回取り入れたが、熱心な学生には効果的であった一方、そうではない学生は参加度が高まらないという問題があったのかもしれない。講義科目の限界はあるが、この点を工夫したい。 ○児童生徒を意識した授業づくりの楽しさを一層感じることができる授業としたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○達成状況は学科全体としては、ある程度満足できるレベルにある。二極化している学科と比べると、中間層の底上げという課題がある。ある程度意欲的な取り組みをしないと中間層の結果は上げられないため、下に示す授業実践分析の学習を工夫することで良い結果が期待される。下位層は形式を整えるのが精一杯という現状である。下位層への具体的指示や目標提示を上位層とは別に行うなども検討すべきかもしれない。 ○授業実践動画の視聴と検討に時間をかけたが、これは比較的理解を深めるきっかけとなったと思う。次年度も同様の試みを継続する予定である。 ○授業時間中に行った指導案作成の演習形式の授業において熱心な取り組みが見られたので、このような形式をさらに取り入れたい。